魁の花巫女
さきがけのはなみこ
きただりょうま
1
SHONEN MAGAZINE COMICS

きただりょうま

SHONEN MAGAZINE COMICS

目次

第一輪「神代雛」 3
第二輪「廓夜城」 73
第三輪「春椿　其の壱」 119
第四輪「春椿　其の弐」 151
第五輪「春椿　其の参」 169

RawLazy.Com
月夜に
照らされた
彼女のその姿は
この世の物とは
思えない程
紅く
そして
DL-Raw.Se

花(はな)やいでいた
第一輪(だいいちりん)「神代(かみしろ) 雛(ひな)」

あれだけ厳しかった親父が

あっさりと死んだ

それと どうやら
喪主は同居していた
お孫さんが
取り仕切るそうですが
問題ありませんか?
え…
そんな
話が…?
はい…
…はい…
わかりました…
それでは
失礼します
結局…
親父とは喧嘩
別れしたまま
だったな…
葬式ってことは
実家に帰らなきゃ
なんないって
ことだよな…
母さんは
離婚してから
居場所も
知らないし
一人で帰る
しかないか…

もっとスカート短い方が絶対バズるって

えーそう?

あ やば…

ちょっと君達
今何してたんだ？
スカートの丈も
えらく短いみたいだけど
なんのことか
さっぱりなんだけど
ぴらっ
それに
ちゃんと下に
体操着 着てるから
文句ないっしょ？
そういう問題じゃないっ
そんな足出してたら風邪引くぞ
それに世の中には
変な男もいるんだから自分を
大事にしろ？
ほら掃除は
俺がやっとくから
遅くならないうちに
早く帰りなさい
は…はい…
な…？
甘いというか…
おかん？

謝罪はもう結構です… それにどうせこの後も別の仕事を入れているのでしょう?

!

そうだった…

すみません これで失礼します!

神代先生
お父様のこと改めてお悔やみ申し上げます

翌日―
熊出没注意
はぁっ
はぁっ
ったく…なんでこんな山の上に神社なんて作ったんだ…？
そりゃあ人なんて来ないよな…
ふうっ
ただいま…

鍵も開けっぱなし

誰も居ないのかー?

なんだよ居るじゃないか

すっすみませんっ!!
ぴしゃ
身内しか居ないと思って つい…
ん…?身内…?
もう戻って来ないと思ってましたけど今更 帰って来たんですね
新兄さん
もしかして君…
新兄さーん
4年前
雛ちゃんか…?
ごめん急に来ちゃって…
動悸動悸
4年ぶりくらいか?
大きくなってて全然 気づかなかったよ
DL-Raw.Se

ぱちくり
…一体どこを見て大きくと…？
いや別に深い意味はないから…
では私にはこれから喪主の準備があるので
！
ぷいっ
そうだった…高校生になったばっかなのに喪主なんて大変だろ？俺が代わるよ
もう準備してしまっているので結構です
それと言っておきますけど

この神社を継ぐなんて絶対に言い出さないでくださいね？

貴方みたいに無責任な人間に跡継ぎになって欲しくはありませんので

神代雛

歳の離れた俺の義理の兄
神代進の一人娘で

血縁関係はないが俺の姪に当たる

昔は歳の近い叔父の俺を兄と呼ぶくらい慕ってくれてたっけ…

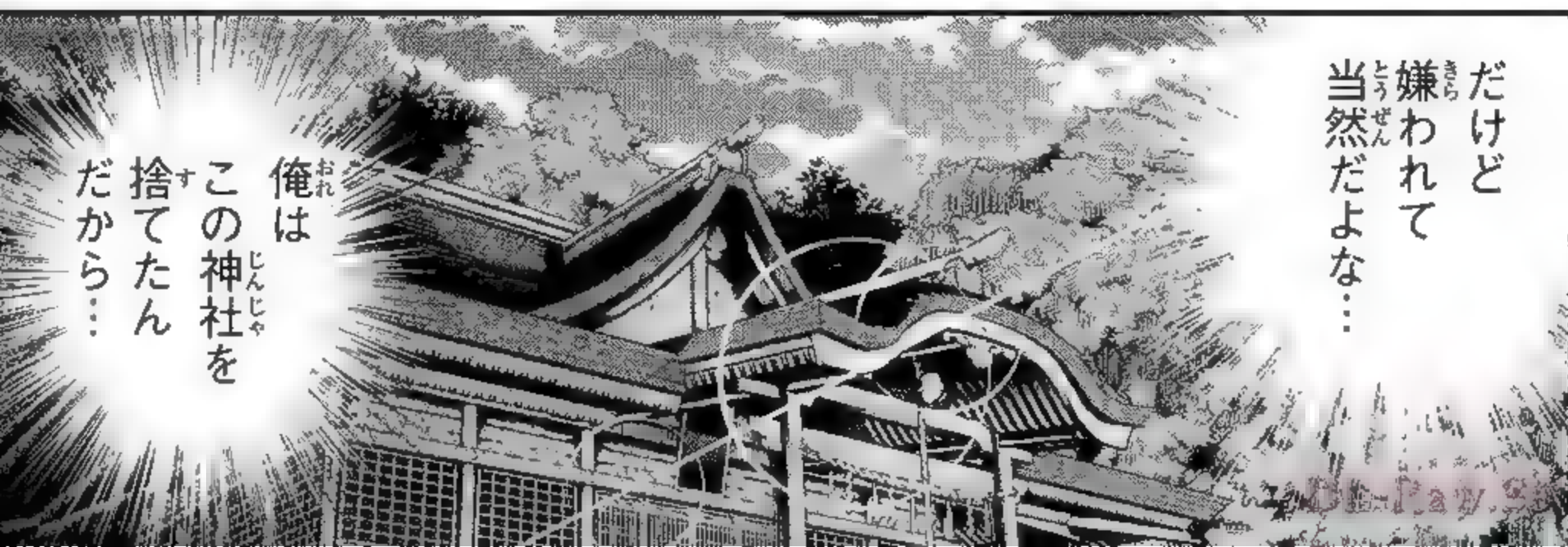
新兄さん勉強教えるの上手だね

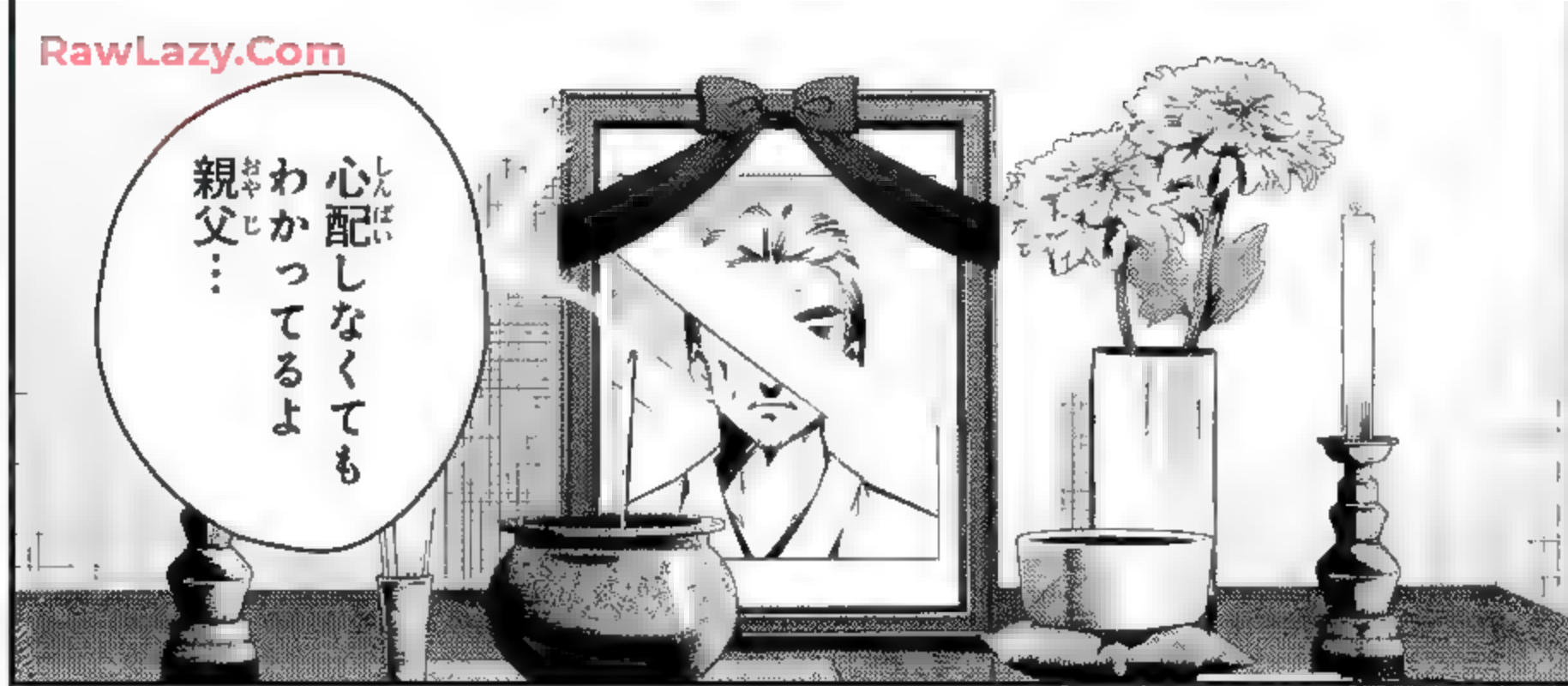
そうだ！将来教師になりなよ

そしたら私毎日勉強教えてもらえるし

いやいやそんな単純な話じゃないだろ…

大丈夫

私応援するからさ

俺の義兄は
昔から優秀で
周囲の人望も厚く
この神社の跡継ぎ
となることを
期待されていた
それに引き換え
俺は何をやっても
兄を越えられない
平凡な弟…
なのに…
4年前の
事故で
俺の方が
助かって
しまった
その時のことは
ほとんど
覚えていない
ただ警察によると
どうやら凶暴化した
熊に襲われたらしい

そして
俺に跡継ぎの
話がきそうに
なった時
俺は
東京に出た
雛ちゃんに
十分な生活を
させる為に
田舎の神社なんて
継がずに東京で
仕事がしたいという
名目だったけど
今思えば
ただ兄の代わりという
プレッシャーに
耐えられなかっただけ
なのかもしれない

心配しなくても
わかってるよ
親父…

義兄さん達も
居なくなって
雛ちゃんの
家族は俺一人
なんとしても
帰る前に
仲直りするよ

今更こんなこと言っても遅いかもしれないけど

君を置いて東京に行ったことは後悔してるんだ…

本当にごめん

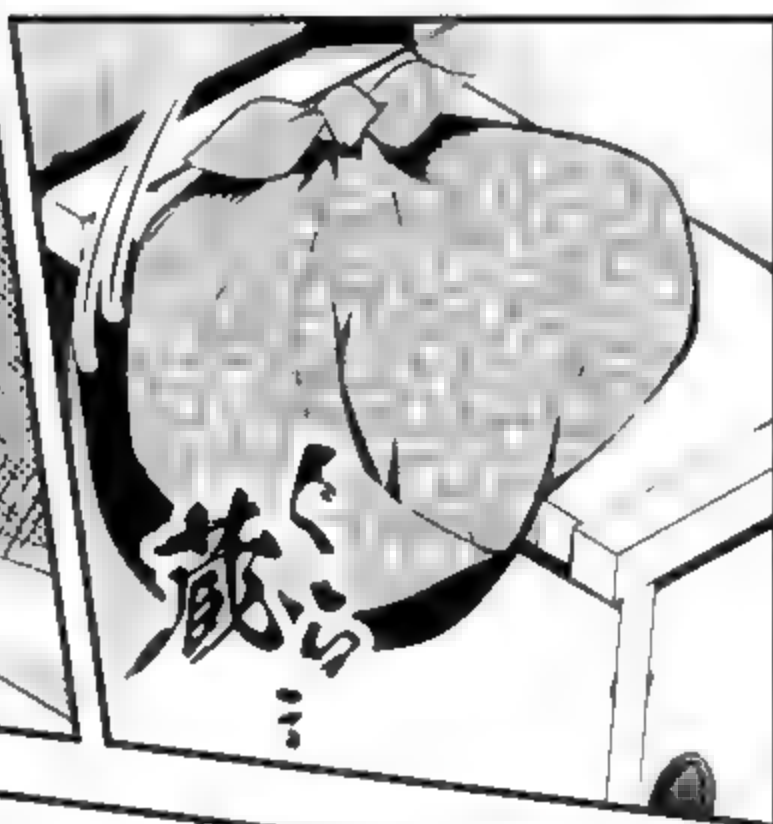
それに一緒に居る時くらい頼ってくれていいんだぞ？

一応 俺達 家族なんだから…

今まで放っておいたくせに…

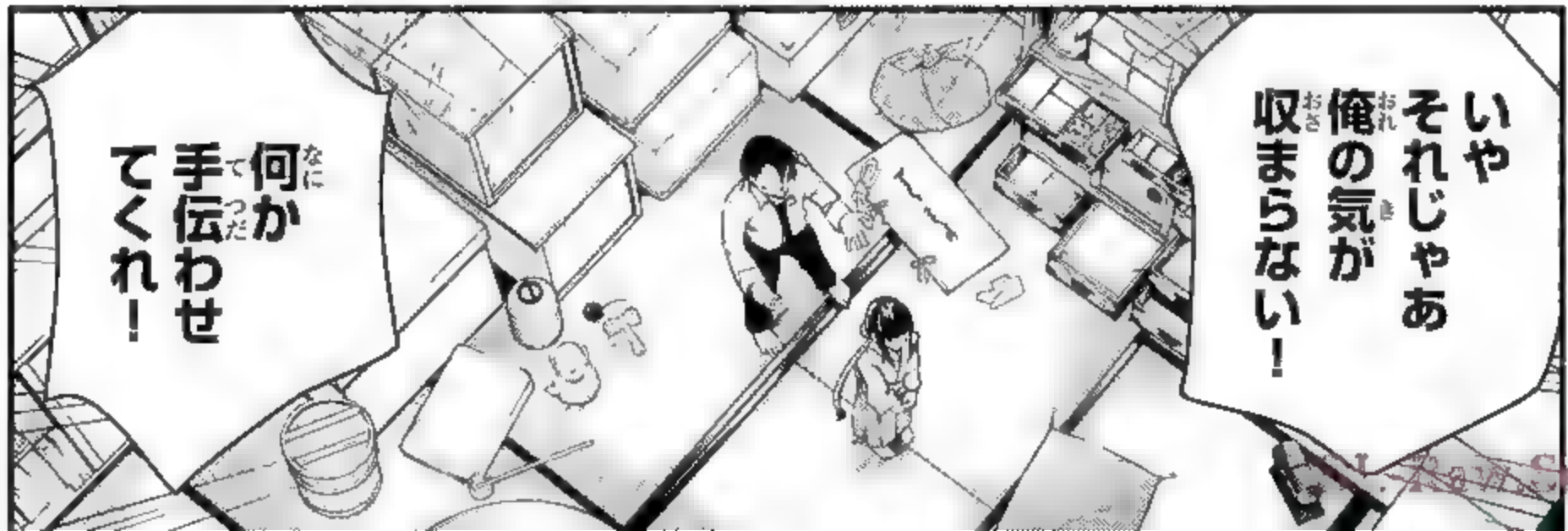
今更 保護者面しないでくださいっ

！

危ねっ

あ…危ないなら先に言ってください
いや言ったけど

〝奉納刀〟

この神社に納められた奉納刀を探していたんです
最期御祖父様に託されたので

ほうほう…
ほーのーとー？
はぁ…やっぱり結構です…

いやそれじゃあ俺の気が収まらない！
何か手伝わせてくれ！

あーもう
それじゃあ
境内の掃除
でもしてて
くださいっ

あー
疲れたー…

しばらく
見ない間に
荒れ過ぎだろ
この神社…

また喧嘩したのか? 新
いじめっ子を止める為とはいえ暴力はダメだ
だって父さんがいつも俺に口には気をつけろって言うから 身体でわからせるしかないだろ?
確かにそうは言ったが 義兄さんはこんな問題一度も起こさなかったぞ?
いつも義兄さんって… なんでそこで義兄ちゃんが出てくるんだよ!?
よく聞け 新
これはお前にだから言うんだ

「言い勝ち功名」
「舌は禍の根」
言葉は刀と同じだ
人を傷付けるのは簡単だが守ることは難しい
だから他人にも自分にも決して悪い言葉を使うんじゃないぞ？
言霊
〝言霊〟といって昔から良いことも悪いことも発した言葉には力が宿ると言われている
わかったよ…
そんじゃあその刀に触らせてくれたら約束してやってもいいけど？
いずれ時が来たらな
それまでは絶対に触るんじゃないぞ？
ばこ
箱っ

懐かしいな…
喧嘩した後は
よくこの蔵に
来てたっけ

確か
この辺に…

あった
あの箱だ

こっちも随分ボロボロだな

確かこの中だと思ったけど…

っ!?

地震…?

惹(ぴく)っ
波(ば)射(しゃ)っ
握(きゅ)っ
DL-Raw.Se

軋々…
収まったか？
危ねー…
刀も
見つかったし
さっさと
部屋に戻ろ…

なんだ…
あれ…？

なんで…
今まで忘れてたんだ…
あれはただの事故なんかじゃ――
！

っ…
足が…竦んで…
轟っ
がたんっ
どさっ
こんな時間に何をしているんですか？新兄さん
痛っ

雛ちゃん…？
その奉納刀…
禍神に狙われるということはどうやら本物みたいですね
禍神…？
雛ちゃん…君は何者なんだ…？

私達は禍神から
人を守る
花やいだ巫女

〝花巫女〟
です

紐しゃ
ん
祓へ給ひ
清め給へと
恐み恐みも白す
紐しゃ
ん
御力拝借

風神の神憑
ふうじん
かみがかり

さようなら

弾 ぽちん

雛ちゃん…俺の居ない間に君に何が…
これ以上説明する気はありません
その奉納刀を置いて明日すぐに東京へ帰ってください

そして…二度とここへは戻って来ないで

雛…

実は…思い出したことがあるんだ…
!

4年前…
俺と義兄さん夫婦が事故に遭った日…
正直 俺にはその時の記憶がなくて
現場状況から熊か何かに襲われたってことになってたけど…
もしかしたら君の両親…
俺の義兄さん夫婦は…

鈍っ
しまった…
頸を落としたと思って油断した…

新…
兄さん…
逃げてください…
禍神が私に気を取られている間に出来るだけ遠くに…
禍神は鳥居の外までは追って来れません…
早…く…
どくん
俺の所為だ…
俺が勝手に奉納刀を取りに行かなければ…
そもそも実家に残っていればこんなことには…

もしかしたら
雛ちゃんが
俺を遠ざけた
のは…
危険から
遠ざける為
…？

一人にした上
そんな思い
までさせてた
なんて…

俺はもう——

君を置いて逃げたりしない

滅っ

かはっ…
ずぬっ
嚓
ためっ
雛ちゃんはあの小さい身体でこんなのを喰らったのか…？
無理だ…
垂ら
俺なんかが、こんな化け物に勝てる訳——
言葉は刀と同じだ
人を傷付けるのは簡単だが守ることは難しいだから…

!?
おい…
なんでそっちに
行くんだよ…
こっち向けって…！
頼む…
目を覚ませ…
立ってくれ
雛ちゃん…
避けろ・・・
雛っ！
避

ギ

ど

ご

ぉ

轟

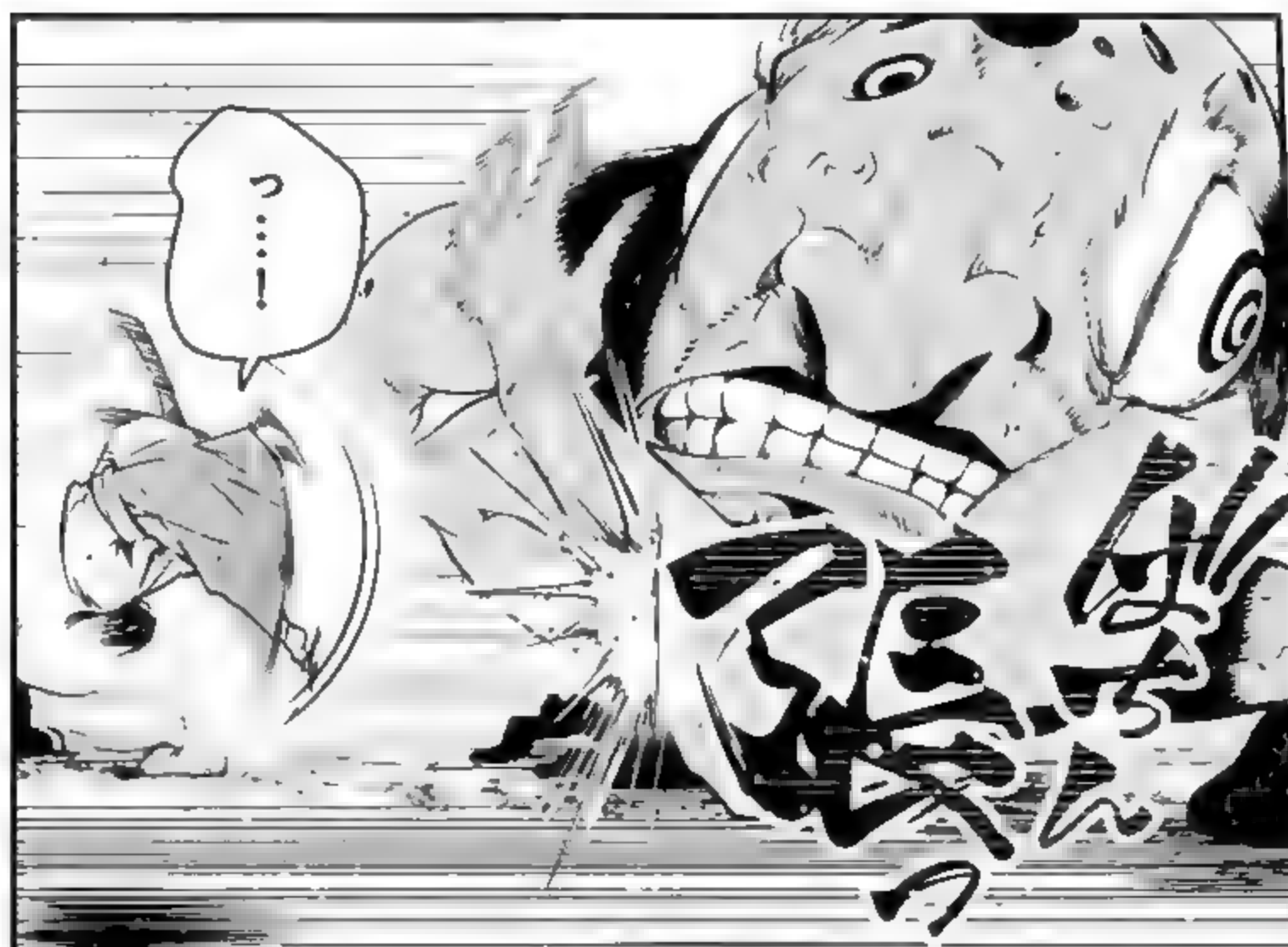
ばっ

跳

今…私に何をしたんですか…？

新兄さん…

醒はっ

ぞっ

何って…
俺は別に
何も…
！
兄さん…
その刀…!?
！
なんだ…
これ…？
まさか兄さんが
〝誂〟の能力を…
どういう
意味だ…？
〝誂〟
発した言葉に
実現力を付与する
まさに神業です
その刀の
持ち主のみが使えたと
される能力ですが
発現したのは長い
楼主の歴史の中でも
数人だけだとか

だから父さんは
昔からやたら
言葉には気を
つけろって…
この際 理由は
どうでもいい…
今はこれに
頼るしかないっ
てことなら…
今だけで
いい
アイツを
倒せるだけの
力を出すんだ
新

はああああっ

兄さんっ

それと雛ちゃん…
君に一つ言っとか
ないといけない
ことがあるんだ…

実は君の
両親は…

禍神に
殺された…

…ですよね
…？

！

だから御祖父様に
無理を言って
危険な花巫女の
仕事をさせて
貰ってたんです

さっきも
言ってたけど…
なんなんだその
花巫女って…？

唯一禍神を倒せる力を持つ巫女のことです

御祖父様はこの神社の神主の傍ら花巫女を纏める楼主を務めるのが本当のお役目でした…

ぱちん

だったら俺がその楼主になってやるよ

約束する
今度こそ君を守る為にそばに居るって

今まで
一人にして
ごめんな

兄さんに隣に居て欲しかった…

雛ちゃん…

ぱアっ…!?

新兄さんっ…!?

！

全く…

へ…

はっ

どこだ
ここ——？

禍神…!?

なんで人間と一緒に…?

よかった…
起きたんですね
兄さん

心配しましたよ
丸2日寝っぱなし
だったんですから

雛ちゃんっ
向こうの部屋に
禍神が…!

安心して下さい
ここに居る神様は全て〝福神〟
禍神と対極の人に福を齎す神様です

福神…？

ここは一体どこなんだ…？
まさかあの世だなんて言わないよな…？
ちゃんと現実です

ここは神社の裏山の結界内に隠された社
名を〝廓夜城〟

戦うだけでなく
ここで福神をお饗しするのも

私達花巫女の重要な仕事です

そして
その花巫女を
取り纏めるのが
楼主様…
つまり
兄さんの
お役目です

ここで絶対に御祖父様の跡継ぎになると

約束してください

ああ

約束だ

ここがどこだろうと関係ない

俺はここでたった一人の家族を…

雛を守ってみせる…！

時は江戸
突如〝穢土〟と現世を繋ぐ門が開き
そこから出てきた禍を齎す神〝禍神〟が人々を苦しめていた

しかし花巫女の始祖出雲阿国が〝福神〟の力を借りて
遂にその門を閉じることに成功する

そして現世に福神を饗す社〝廓夜城〟を築き
今もなお花巫女達は禍神から人々を守っているのだという――

第二輪「廓夜城」

ここが雛ちゃん達花巫女の仕事場…
廓夜城…

あれ全部神様なのか…？
ちょっと兄さんっ
勝手に歩き回らないで下さい…！

なぁ雛ちゃん
花巫女って一体何者なんだ？
昨日見た通り
禍神を倒せる力を持った巫女のことです
穢土との門を封印されてもなお
未だに人に危害を与える禍神は後を断ちません

それが昨日のあれか…

歌舞楽器
酒食事
お饗しのお代として神様の力を宿した〝神符〟を頂き
その力を借りることで人間は禍神を退けられるという訳です

神符の売り上げこそが花巫女の強さの源
廓夜城ではそれで全てが決まります
「御客様は神様」ならぬ「神様が御客様」って訳か

それでは兄さん上役に会う話をつけてきますので
それまで絶っ対にこの部屋から出ないで下さいね
へ？
擦すっ

とにかく絶対に
他の花巫女に
見つからないように
してくださいね？

わかったよ…

!?
な…なんだ…？
おいこら テメェ 今あの娘に触ったろ？
ウチは そういう饗しは してねーぞ？
ぶんぶん振々っ

次やったら出禁な？

稲妻

大丈夫なのかあれ…？

はー…またですか…

ちょっと待ってて下さい兄さん

人間の…男!?
あ やべ…
人間の男がどうしてここに…
えっと…これはその…
!?
へー年頃の男の身体ってこうなってるのか…
触々

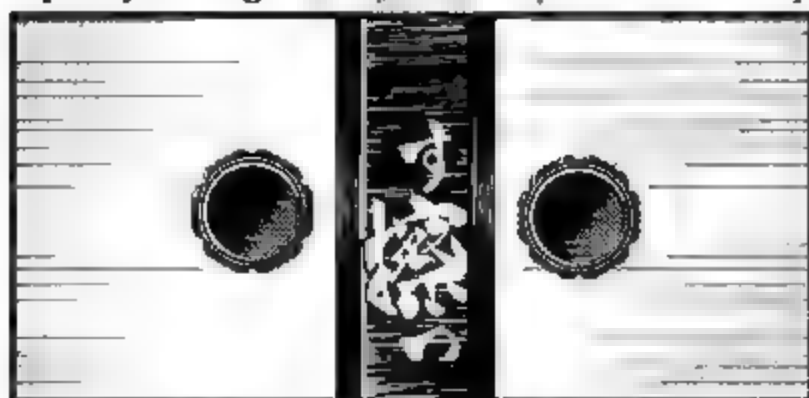
ちょっ
何すんだ
雛菊…!?

どたん

次 私の叔父さんに
手を出したら
ただじゃ
済みませんよ?

悪かったから
それだけは
止めてくれ…

わかっ…
ああ～
～～っ

ばたん

お待たせ
しました
兄さん

安心して
下さい

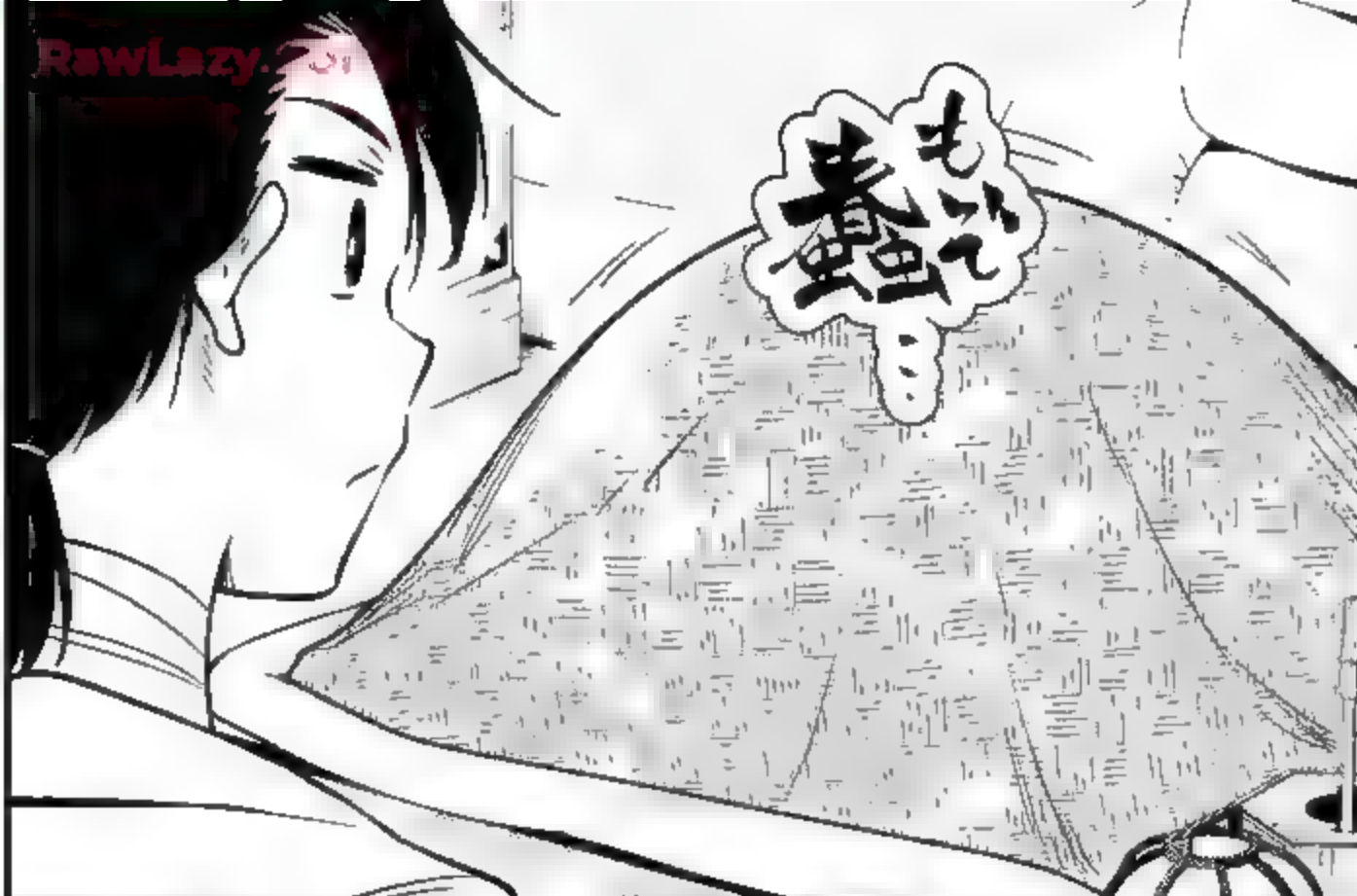
いつもは
もっと静か
なので…

ならいいんだけど…

何が
あった…
!?

ちょっとどこ行ったんですか〜!?
月下ちゃ〜ん!
今度は何!?

聞いてください雛菊ちゃん…月下ちゃんったら接客中の御客様を置いてどっか行っちゃって…
よしよし泣かないの…
全くあの娘ったら…!
またトラブルか…

私も捜すの手伝ってきますから兄さんは部屋に入っててください
俺も手伝おうか?

いえ大丈夫です男の人が彷徨ってたら皆びっくりしてしまいますから
……だよな…

もぞ
蠢…
これは想像以上に大変そうだな…
……
ばっ
誰!?
それはこっちのセリフ…
っていうか男!?
ずざっ

男のことだからどうせこの後黙ってて欲しかったらいやらしいことさせろとか言うんでしょ…!?

このド助平っ!!

てか そもそもなんでここに男がいるのよ…!?

ここは絶対男子禁足領域のはずよ!

それは…

貴方…覚えておきなさいよ?

ありがとうございました…
月下ちゃんを見つけてくれて…
貴方…男の人ですけど良い男の人なんですね…
何か事情があるんでしたらこのことは黙っていましょうか…？
ああそう言って貰えて助かるよ
良かった…話のわかる人も居て…

あんまりしつこいと切り落としますよ？
猪牙
猪牙
何を!?
はっ
すみませんっ 私 男の人が苦手でつい反射的に…!
いや…こっちこそ無理言って悪かった…
確かに俺は隠れてないとな

お騒がせして申し訳御座いません御客様

気にせず御緩りとお過ごし下さい

なずな

はぁ〜〜〜っ

ぴしゃっ
閉
ぴしゃっ
閉

御客様も許してくれましたわね 春椿
そっ そうですね…!
そりゃ反応に困るよな…

神様を饗す巫女とは聞いてたけど…
皆思ってた以上に個性的だったな…
ぷぷっ またやってるよ 丁子部屋の娘ら
ひそ
密
自分より下が居ると思わせてくれることに感謝しかないわね
ひそ
密
……

さっきの娘達は雛ちゃんの仕事仲間なのか？

はい…皆良い娘達なんですが何かと問題児扱いされていて…

そうなれば私達はまた離れ離れです…

失礼します
お話があるのですが
遣手婆様
何回言えばわかるんじゃ雛菊
儂のことは遣手婆ではなく遣手姐と呼べと…
それはそうと
!?

なんでここに
男が居るん
じゃ？
あ…
危ね！…
お待ち下さい
遣手ば…
姐様っ…！
この人は
私の叔父
楼主様の
ご子息ですっ
びいいいん

俺は大丈夫だ雛ちゃん…

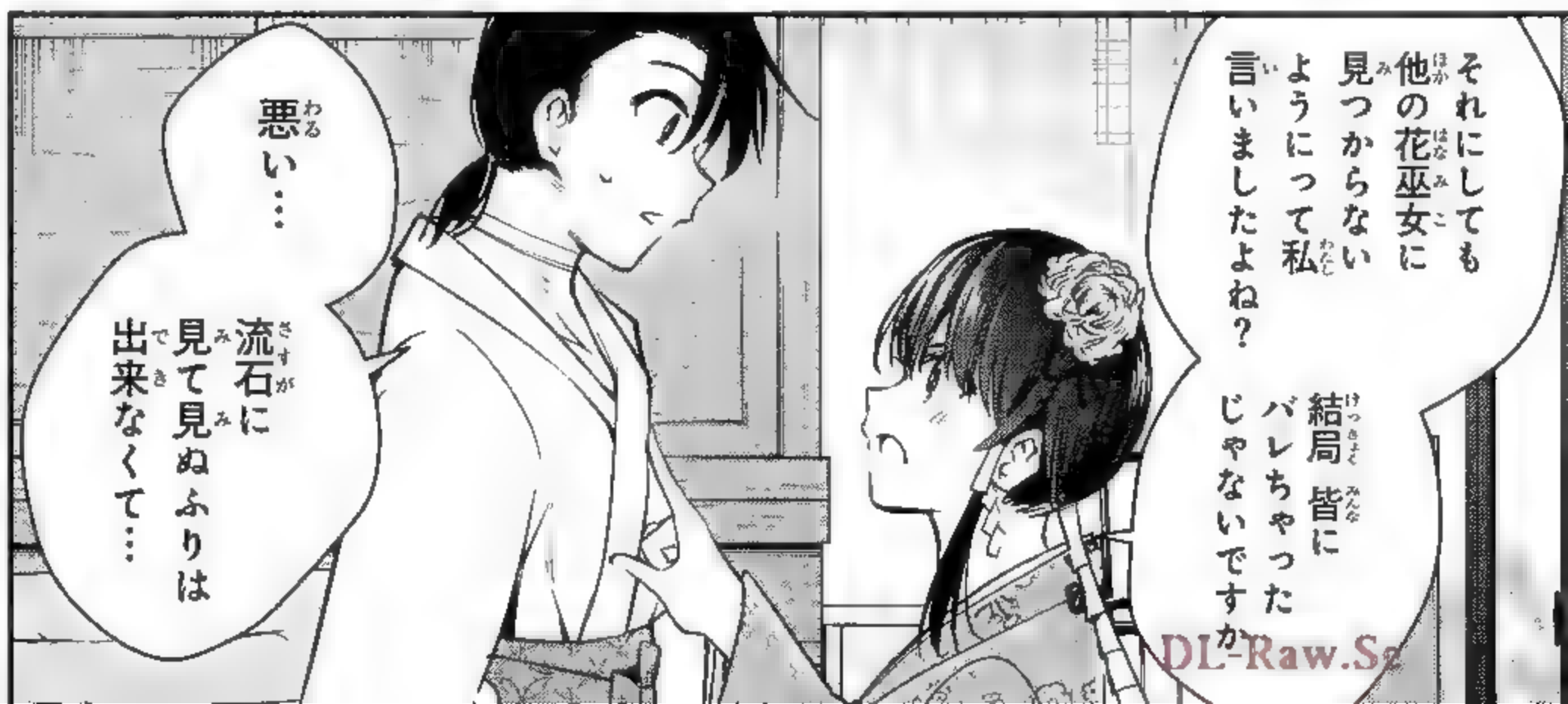
ご挨拶が遅れて誠に申し訳ありません
神代真の次男神代新と申します
父が大変お世話になりました

雛から話は聞きました
いきなり現れてこんなことを言うのは驚かれるかもしれませんが
もし他に跡継ぎが居ないようなら俺に…

俺に楼主の仕事を教えて貰えないでしょうか!?

その為だったらなんでもやります

俺も義兄さんの仇を取る手伝いがしたいんです…！

新兄さん…

高嶺様じゃよ
まさか…こんなに早く…
誰なんだ？その高嶺様って…
ただ一人一等神の福神を御客に持つこの廓夜城一の稼ぎ頭にして
人望も厚く以前から楼主に相応しいとまで言われていた花巫女です
それに以前から男の楼主に反対する意見もあっての
ぱちん
弾の
羽ばっ

そういう理由じゃ
これ以上痛い目見たくなければとっとと帰るんじゃの
そんな…!?

くっ…
女の子とは思えないくらい強い力だ…

俺のことを信用して貰うには…
頼む…放してくれ…!

それなら…

なおさら廓夜城に置いておく訳にはいかんのう

!?

魂が効いてない…?

ぐぐっ

能力が効いてないことに驚いておるか？
当然じゃ
誂は使い手の信頼度に応じて効力を発揮する
この娘達には効かぬよ
そもそもお主は楼主が何なのか理解っておるのか？

楼主とはこの廓夜城の最高指導者
花巫女全員の信頼を得て初めて認められるんじゃ
何の覚悟もなく今日まで外でのうのうと生きてきた男に楼主を任せても誰一人納得せんじゃろ

外へ放り出しな
抵抗するなら喉を潰しても構わんよ

ま…待ってください！
奉納刀を回収出来たのは兄さんのお陰なんです…
…だから…

しっこいよ
楼ぼりっ
っは…
おいコラっ雛ちゃんに何すんだ!?
身を弁えるんじゃ雛菊
今までお前がデカい面出来ていたのも楼主様の孫だったからじゃぞ
くそ…このままじゃ
この危険な世界にまた雛を置き去りに…

俺に出来ることはもうないのか…？

そんなに楼主になりたいのですか？

ごん
痕
いだっ

高嶺御姐様・・・

それでは一度チャンスを与えましょう

曲がりなりにも
お世話になった
前楼主様の
ご子息ですからね
か…はっ
兄さんっ!?
どっ

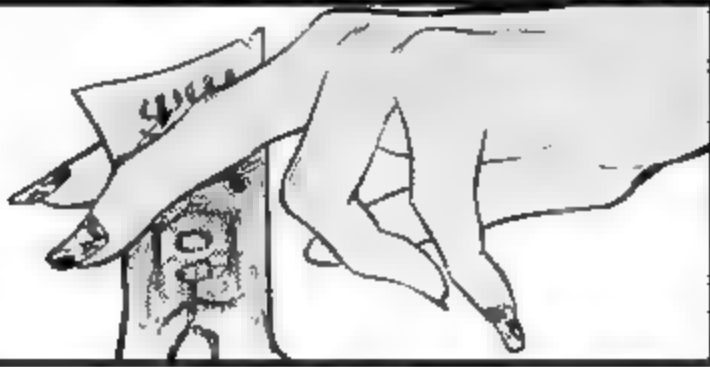
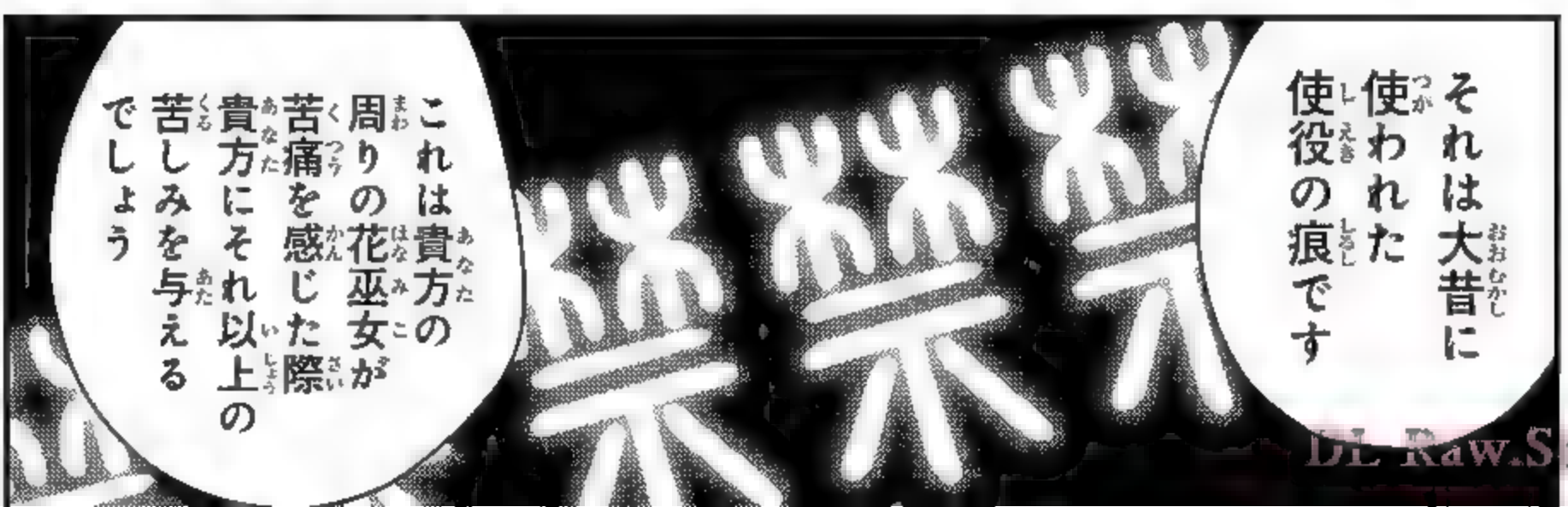
呪の…

そんな…
しっかりしてください兄さんっ

落ち着くんじゃ 別に喉が潰れた訳じゃない
もっとも…それより酷いことかもしれないがの

げほげほっ
大丈夫だ…雛ちゃん…

高嶺御姐様…
兄さんに何をなさったのですか…!?

それは大昔に使われた使役の痕です
これは貴方の周りの花巫女が苦痛を感じた際貴方にそれ以上の苦しみを与えるでしょう

一つ間違えれば死が待っているとしても
この世界のことを学び楼主を目指す覚悟はありますか？
このままここに残れば死ぬ可能性がある…
雛ちゃんの言う通りきっと危険だらけなんだろう
でも決めたんだ
どんなことがあってもこの子を守ると
はい

貴方の覚悟は十分伝わりました
では特別に一年の間猶予を与えましょう
神代新殿

たんっ
本当に良かったのかの？楼主様
ええ…このまま諜使いを野放しにする方がむしろ危険というもの
使える人材は手元に置いておくに限ります

もし使えなかったら…？

その時はその時です

た…
助かった…
…のか…？
下手たっ
もうっ
勝手なこと
しないで
ください…！
ぱしぱしっ
ちょっ
雛ちゃん!?
本当に…
心配したんですからね…？
ぎゅ

絶対御祖父様の跡を継いで下さいね？

ああ約束だ

結局この行灯部屋が俺の部屋になるのか…

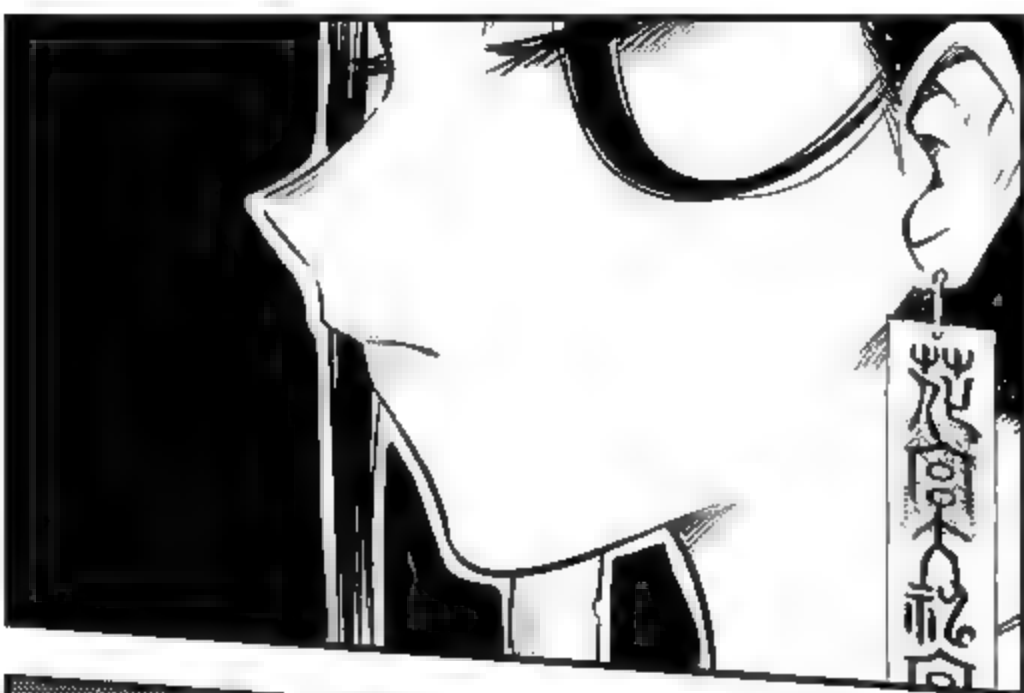
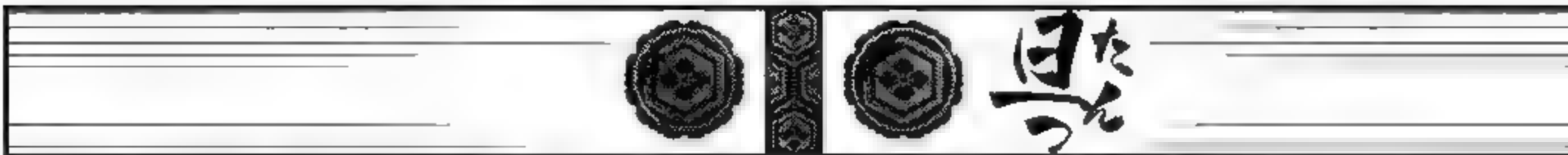
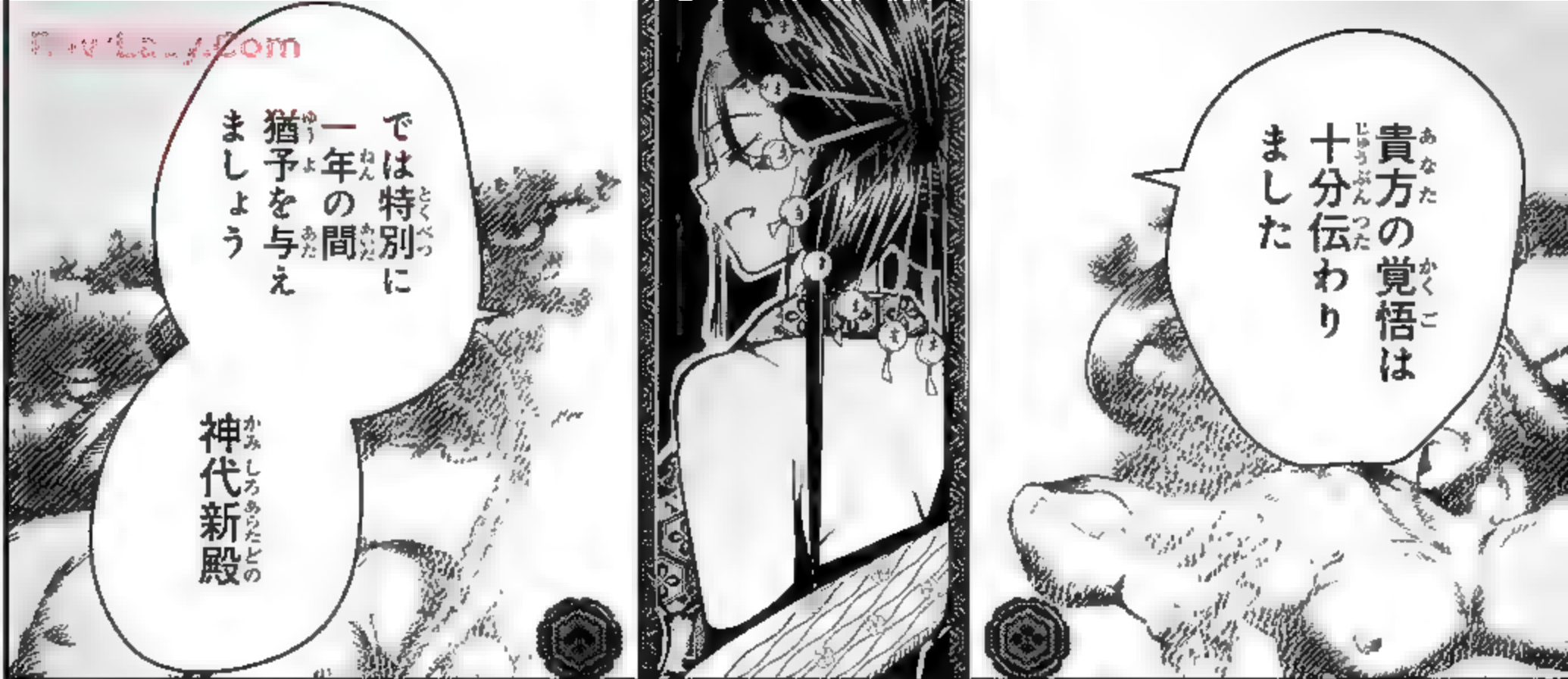
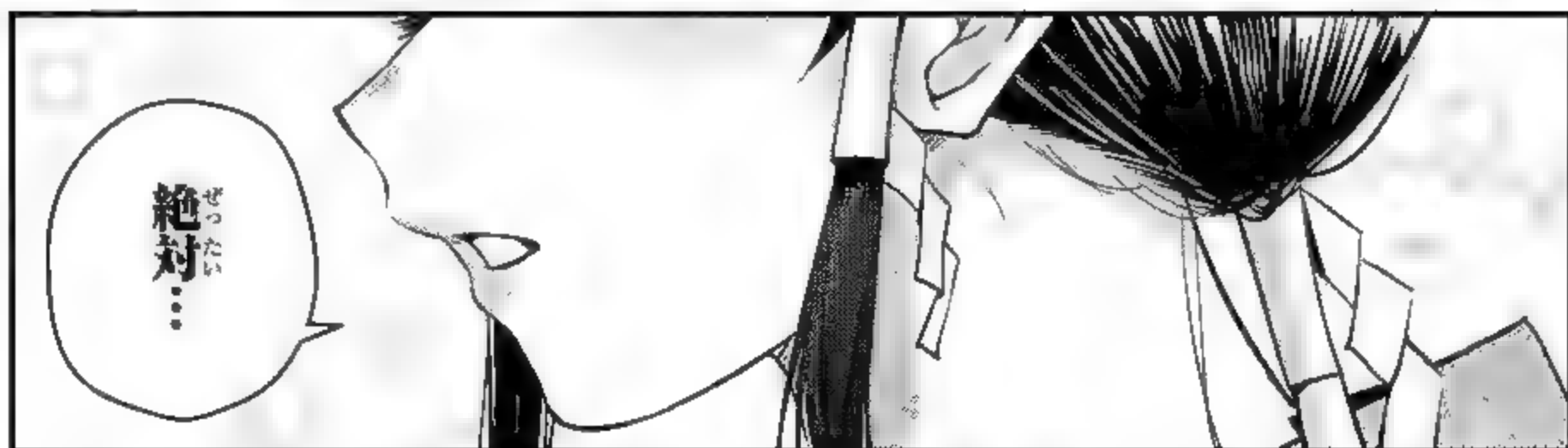
すみません…流石に男性が泊まれる場所は何処にもないらしくて…

に…兄さんが良ければ私の部屋で寝ても良いですけど…

いやここを片付けるのも俺の仕事だし大丈夫だ

でっですよね…!

縮こ…

…

それではまず貴方の技量を見極める為仕事を与えます
先程 貴方が出会った「丁子部屋」の娘らはやる気のない者達ばかりでしてね
神符の売り上げは十二ある部屋の中で万年最下位
そこであの部屋の男衆として働き信頼を得て
一年以内に丁子部屋をこの廓夜城一の売り上げになさい

それくらい出来なければ楼主は務まりません
当然失敗すれば…

この呪いに殺されるか…

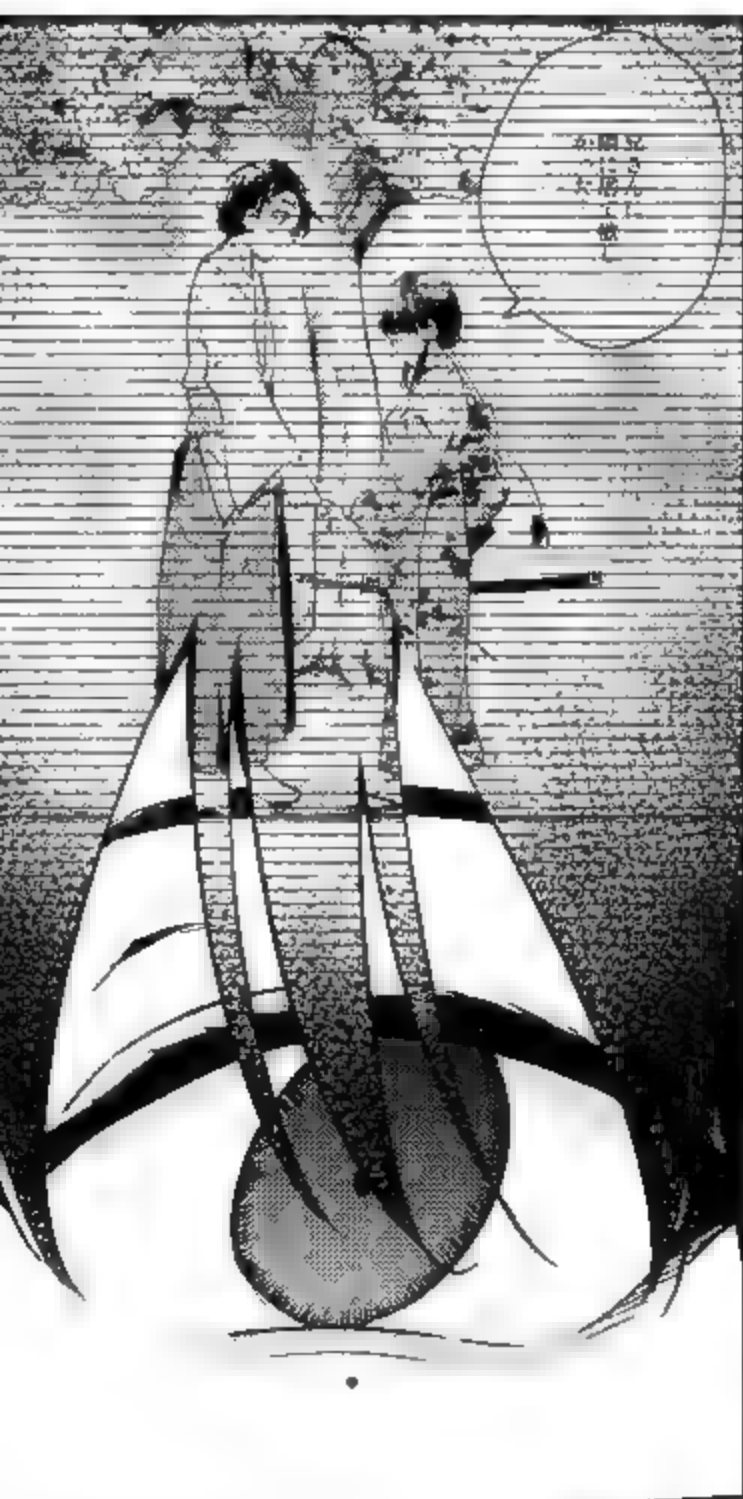
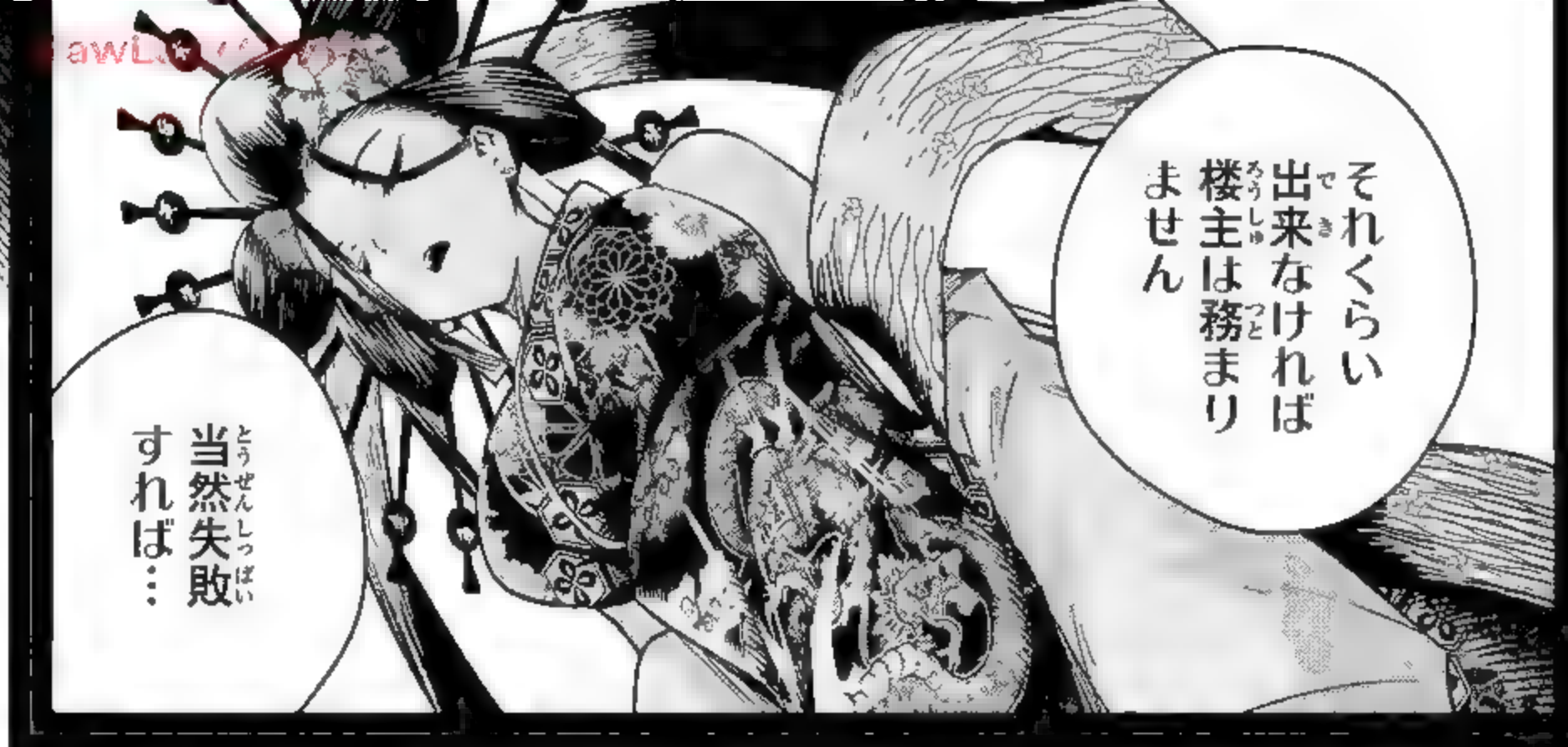
よし…！
やってやる…

俺が絶対にあの娘達を

立派な花巫女にしてみせる…!!

擦々
ごしごし

ふうっ

こんなもんか…

第三輪「春椿、其の壱」

こんこん

おはようございます兄さん

食事を持って来ました

!

何してるんですか?

ああおはよう雛ちゃん

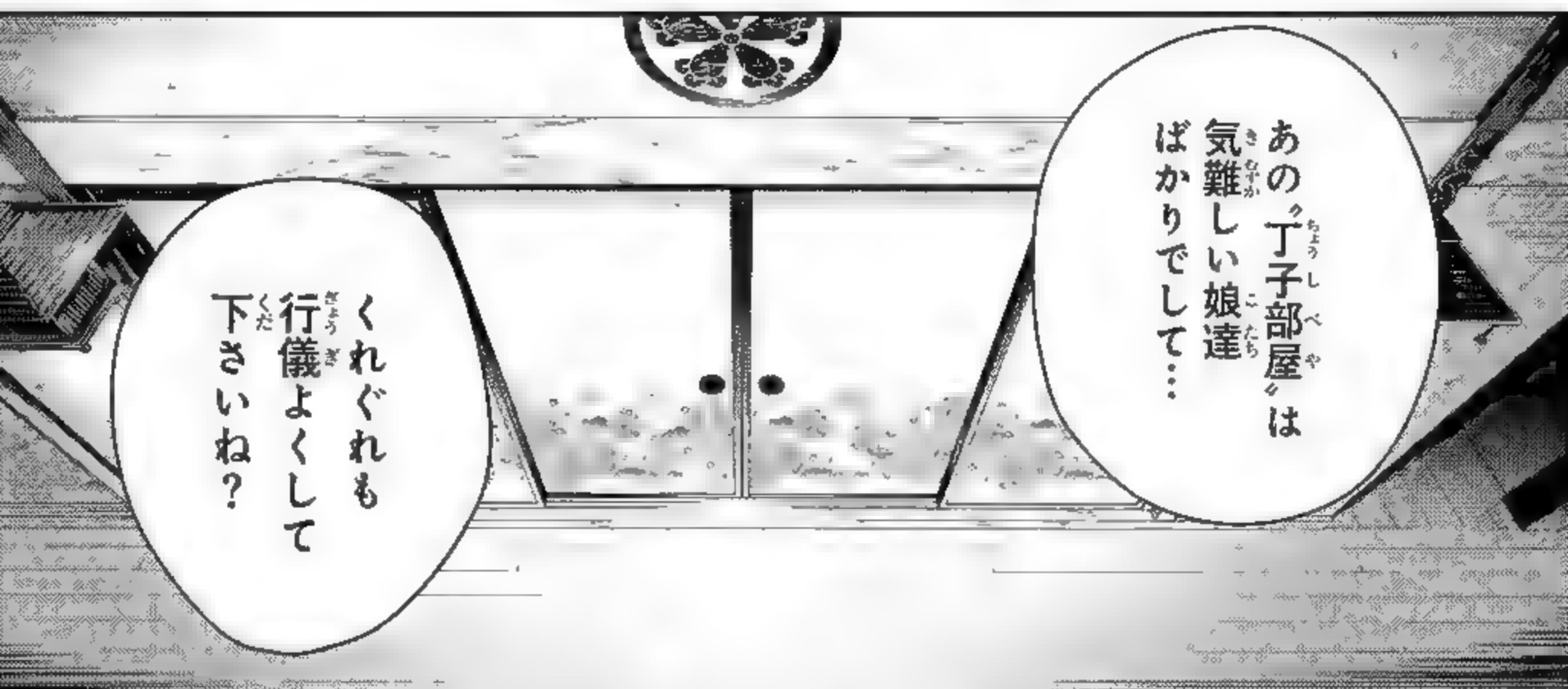
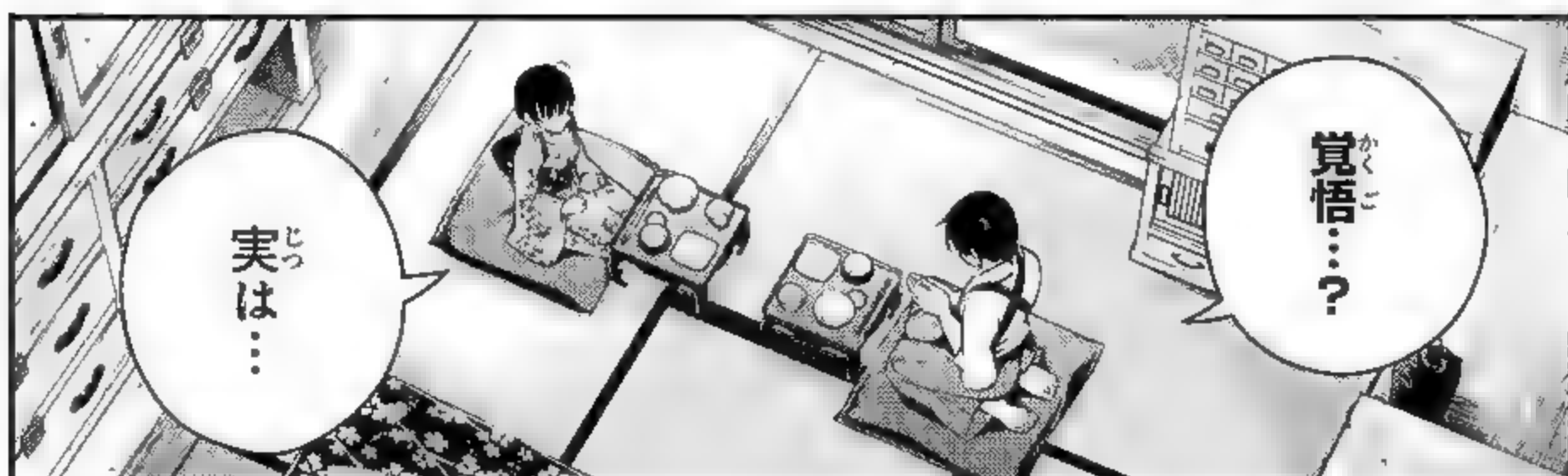
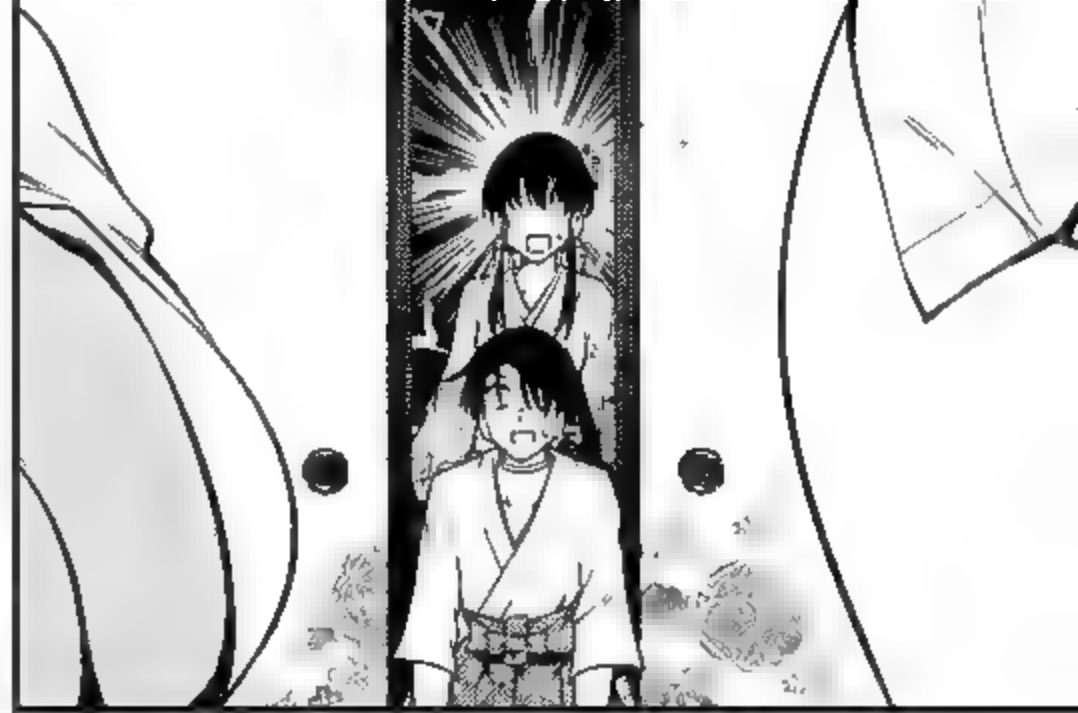
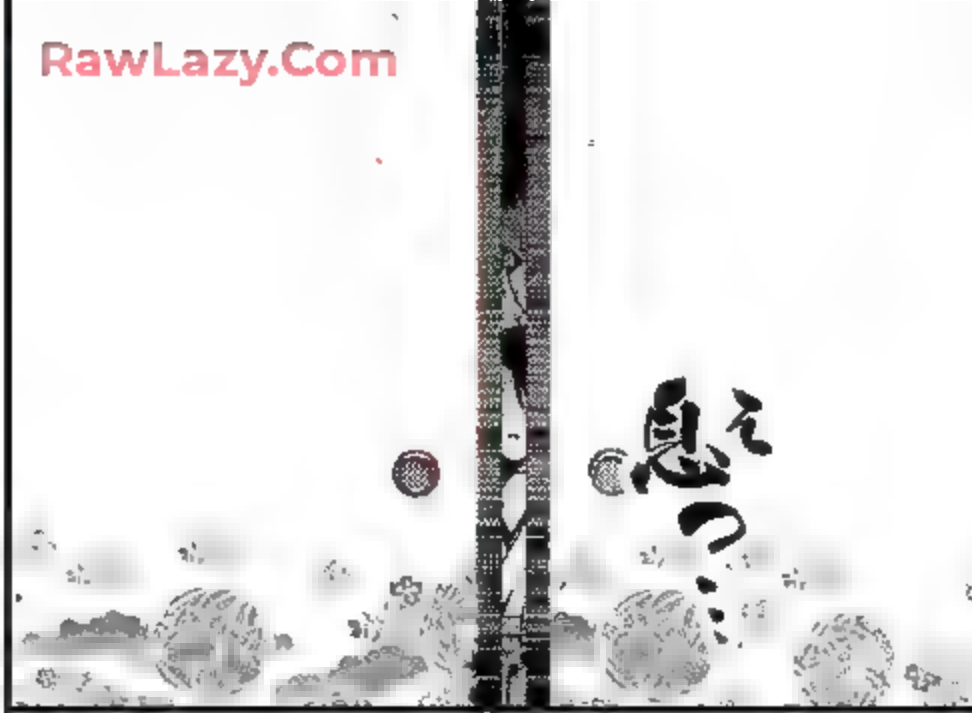
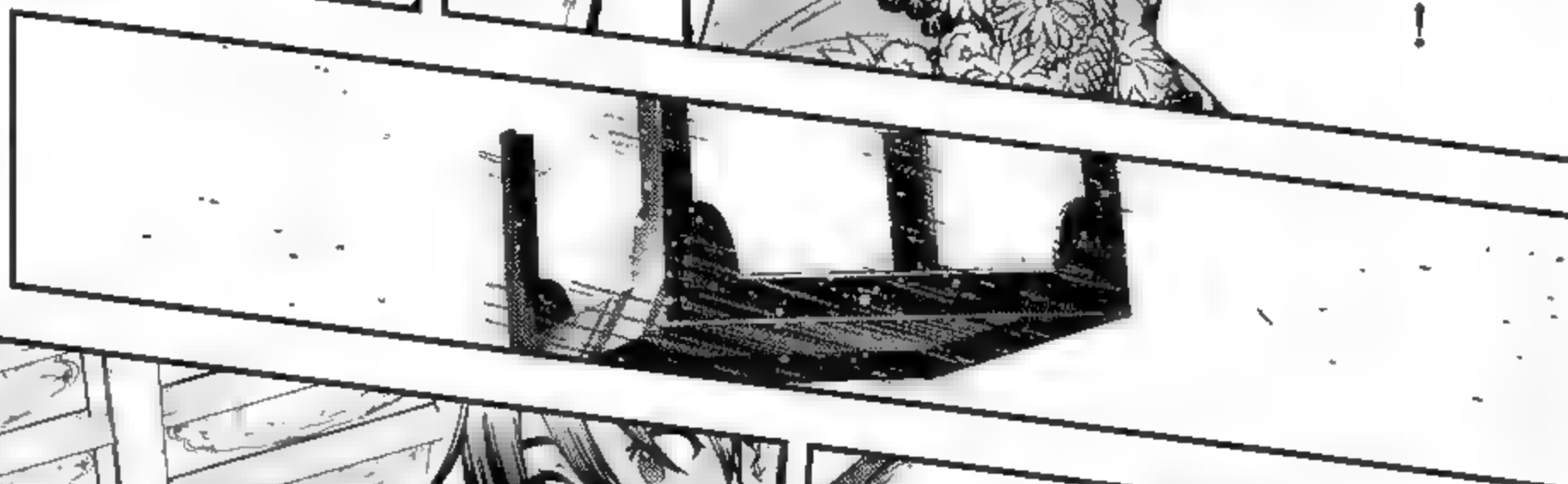
ちょっと掃除してたんだ

これからこの部屋で寝起きする訳だからな

花巫女の信頼を得るよう言われたけどさ
楼主って何をするんだ？
そうですね…最高責任者としての仕事は色々ありますが
主に花巫女を取り纏める支配人のような存在でしょうか？
支配人ね…
だからあの部屋の4人を一人前にするのが条件って訳か…
その通りです
前に言った通り禍神を倒すには御客様から褒美として頂く神符が必要ですから
彼女達が神符を稼げるようにするのが兄さんの役目という訳です

よし…
それじゃあ
早速その部屋に
案内してくれ
それは
いいんです
けど…
覚悟して
おいて
下さいね？
覚悟…？
実は…
あの〝丁子部屋〟は
気難しい娘達
ばかりでして…
くれぐれも
行儀よくして
下さいね？
混々
失礼します

息っ…
おいこら てめえっ
覗きか!?
違うって…!
そんな つもりじゃ…
掴っ
!?
お前…
昨日の男…!?
これは その…

雛菊…!?
なんでお前が…
ちょっと待って…!
これには事情が…
ごっ
あ…
DL-Raw.Se

改めて今日からこの〝丁子部屋〟の男衆として働くことになった

神代 新と申します

ぺこっ

よろしくお願いします

特別扱いか…それは君達もじゃないのか?

俺がここに呼ばれた理由はこの部屋の成績が悪いからって話だ

そんな扱いされて君達も悔しいと思う…

だから一緒にあの楼主を見返してやらないか？

それは…
春椿

やっぱり前楼主様直系の子孫とはいえ
結局男は男ね

ちょっと月下っ
話はまだ終わって…

いえ話は終わりよ雛菊
私達はその男なんて認めない

花巫女がどういう仕事なのかすら理解ってない男に
助けて貰うことなんて何もないわよ
私達も行きますわよ春椿
はっはい…
ぺこっ
たたっ

なあ 雛ちゃん

一つ頼みがあるんだけど

花巫女の
仕事を
手伝いたい…
ですか？
それは流石に
無理ですよ
兄さん
御客様に
なんて説明
すれば…
そこを
なんとか…
花巫女がどんな
仕事をしてるのか
わからなきゃ
協力のしようが
ないだろ？
そう
言われても…
頼むっ
なんでも
するから…
何かいい
方法はないか
教えてくれ！

…一つだけ方法を思いつきました…
本当か!?
それじゃあ覚悟はいいですね…?
兄さん?

ガヤ
賑
ガヤ
賑
あ
雛菊ちゃん
春椿
何か用ですか？
ちょっと新人の研修を手伝ってもらいたくて

ほら新芽さん
は…はい…
?
なんでもするとは言ったけど…
だからって女装なんて…
そうでもしないと御客様が驚いてしまいますから
大丈夫似合ってますよ兄さん♥
ホクロも上手く隠せてます
それはそれで複雑な気持ちだ…
しし

よろしくお願いしますね新芽さん
こ…こちらこそよろしくお願いします…！（裏声）

まだここに不慣れな娘なので基礎からしっかり教えてあげてね？
任せて下さい！

この娘は確か昨日 男が苦手って言ってた…
これはバレるわけにはいかないぞ…

配膳の基礎は作法から
お手本を見せるので真似してみてください
はい…！

擦すっ
擦すっ
歩き方は内股で
音と風を立てないように
だけど出来る限り早く
はいっ
襖の開け閉めは毎回座って静かに
摺りっ
敷居と畳縁は踏まないように
ぱったーん
はい もう一回

はあっ…
はあっ…
着物が重くて動きづらいし…
花巫女ってこんな大変なことしてたのか…

大丈夫ですか…？新芽さん
まだ基礎動作ですけど…
な…なんとか…

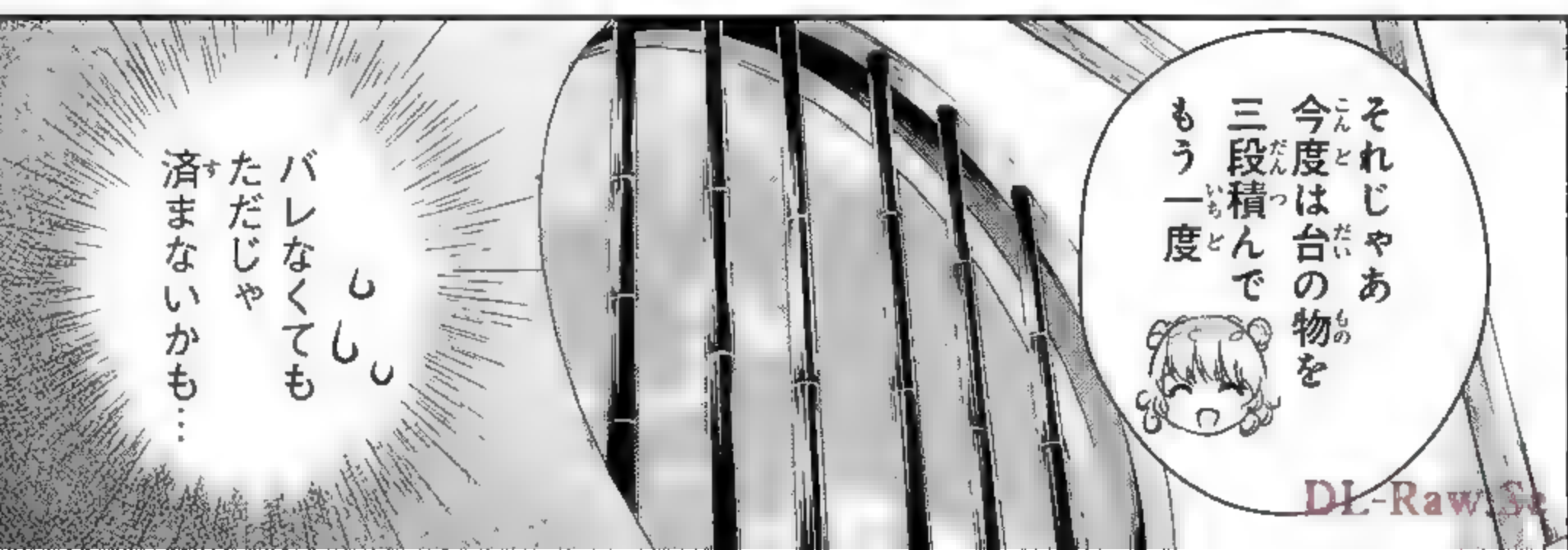
あら 帯が緩んじゃってますね
！
緩る…

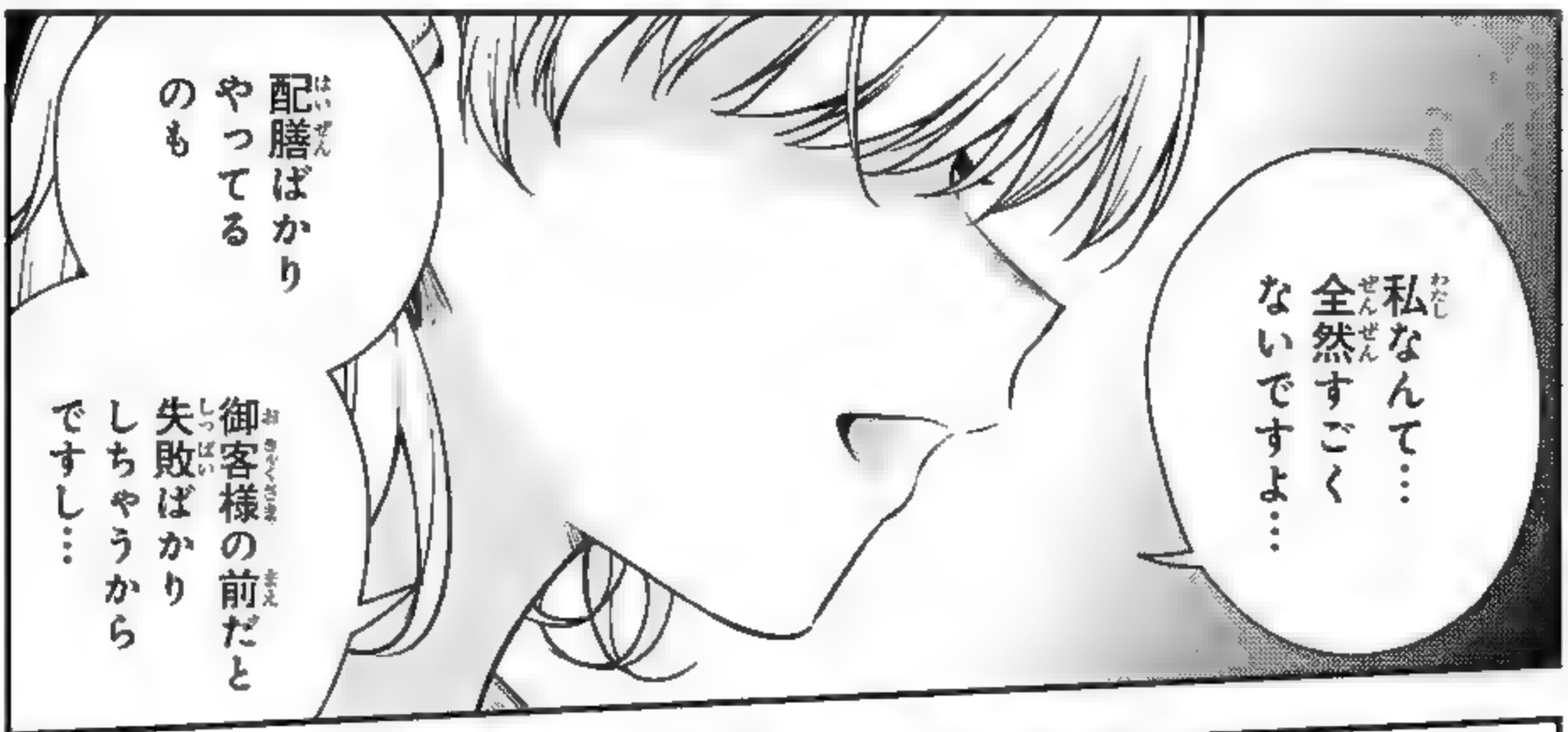
少し じっとしてて下さい

これでよし

いや大丈夫っ
自分で直しますからっ…
男だってバレたら何をされるか…
そうですか？

それじゃあ今度は台の物を三段積んでもう一度
バレなくてもただじゃ済まないかも…

はー
疲れた…
春椿さん…
思った以上に
スパルタ
だったな…
げっそり
お疲れ様
でした
新芽さん
ここの名物
最中の月です
お勝手から
貰ってきちゃい
ました
ありがとう
ございます…
頂きます
だけど
それ以上に優しい
良い娘だな
ん…
美味いですね
これ
ですよね!?
このお菓子
私のお気に入り
なんです!

疲れた時には甘い物が一番ですよね

けど すごいですね 春椿さん…
こんな仕事毎日やってるんですから

私なんて… 全然すごくないですよ…
配膳ばかりやってるのも
御客様の前だと失敗ばかりしちゃうからですし…

それじゃあお茶片付けてきちゃいますね
……はい…
見た限りすごい仕事も出来そうだし
全然問題があるように思えないけどな…

きゃあっ

!?

瓦茶ん（がちゃん）

奴っ（ぬっ）

ひっ…!

春椿さんっ…!

大丈夫!?

何かされたのか!?

震る（ふる）

震る（ふる）

ザ
空っっら

おい
アンタ
…！
いくら神様だからって
容赦しないぞ

えっと…
おかわりですか？
ザーこ

失礼しました…
それでしたら
突き当たりの右に
お勝手がありますので そちらで
お聞きになってください…
ぺこっ

なんだ…
ただお酒の
おかわりを
探してた
だけか…

すみませんでした新芽さん…
自分で配膳は作法だとか言っておきながらこんな体たらくで…
おかしいですよね…
花巫女なのに男性が怖いだなんて
いや…全然おかしくないよ
神様だからって
全員が全員いい奴とは限らないでしょう?

ここでどんなに神様が持て囃されようと
私はいつでも花巫女の味方ですから
これだけは忘れないでください
新芽さん…
自分も花巫女なのに何言ってるんですかもう
そっそうですよね…！

それに…
さっきの
新芽さんカッコ
よかったです
未熟者の
私ですけど
これからも
仲良くして
下さいね？

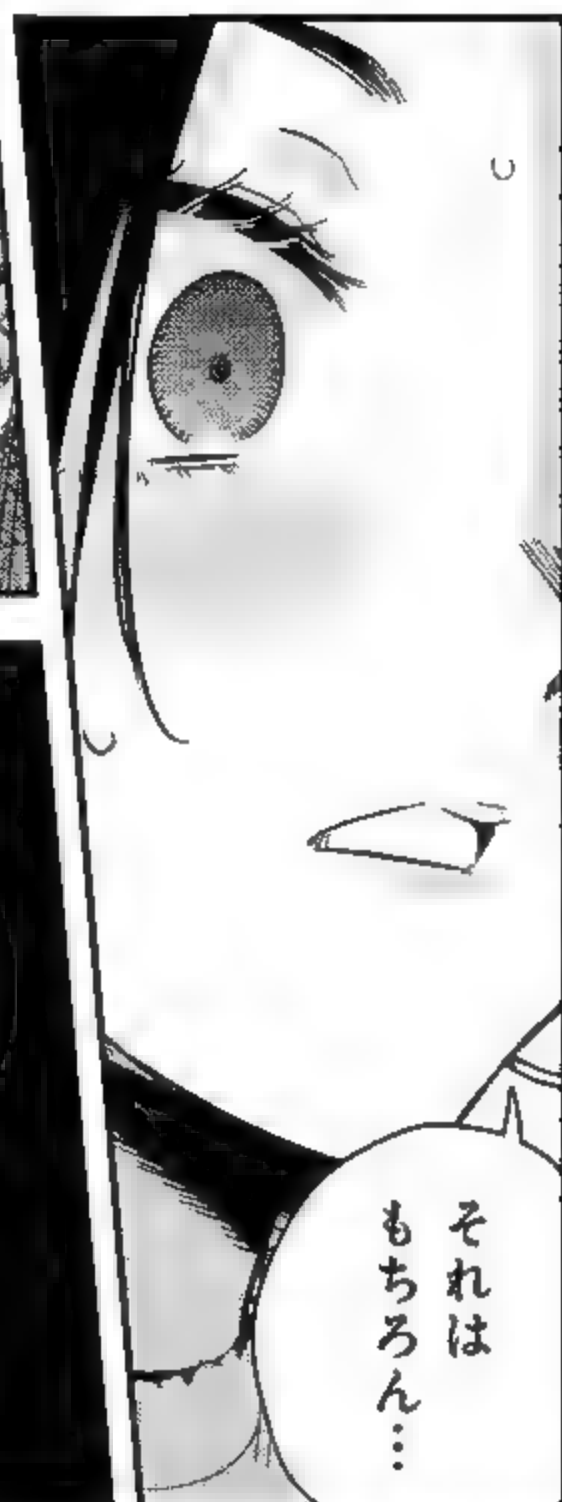
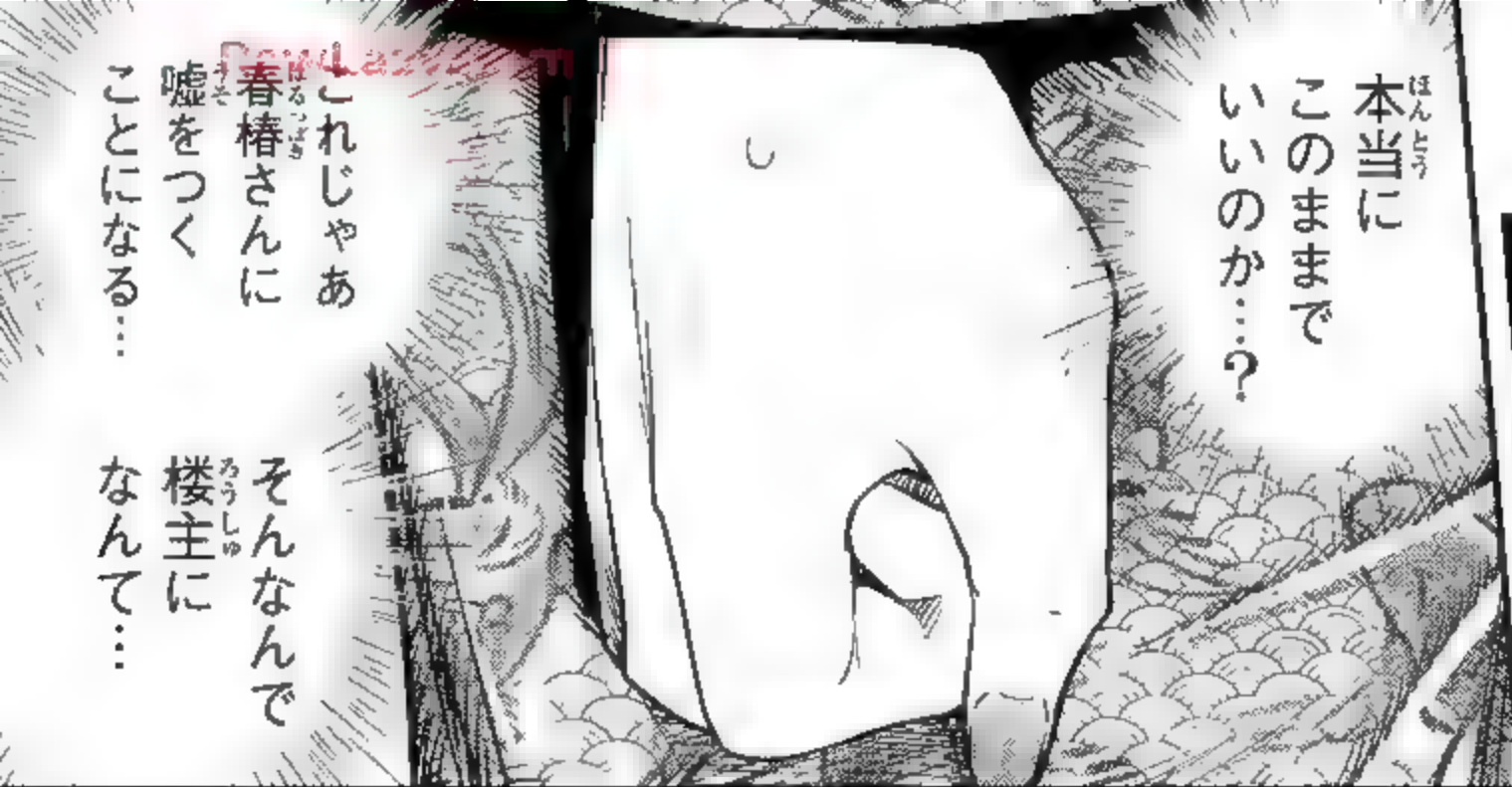
本当にこのままでいいのか…？
これじゃあ春椿さんに嘘をつくことになる…
そんなんで楼主になんて…
それはもちろん…
あの 実は…
大丈夫ですか新芽さん!?

てて…
お…
男の人…？

魁の花巫女

貴方は…確か丁子部屋で働くことになった男の…

女装までして…
私のこと騙してたんですね…
いや…これには事情があって…

この痴れ者…

駄だっ
や…やっちまった…
はあっ
はあっ
このままじゃ丁子部屋の男衆として信頼を得るどころの話じゃないぞ…
まずは傷つけてしまった春椿さんに謝らないと
いや…そんなのはこっちの勝手な事情か

第四輪
「春椿 其の弐」

それで

困って私の所に相談に来たって訳ですか？
はい…

どうりで春椿あの日から部屋に籠もって出てこないと思いました
すまない…何度も頼っちゃって

仕方ないですね
私にも多少の責任はありますし協力しましょう
人に女装させといて多少とは…？

何か言いました？
いや…何でもない

でもよりによって春椿にバレてしまうなんて
どんな子なんだ？春椿さんって…

売れっ子になってもおかしくないくらいとても真面目で良い子ですよ
ただ重度の男性恐怖症みたいで…

男性恐怖症？

ここに来る前男性の御姿をした禍神に襲われたことがあるらしいんです
！

それがトラウマになって神だけでなく男性も苦手になったとか
神様が怖いっていうのはそれが理由か…

そりゃあ当然だよな…
俺だって今思い出してもゾッとするよ
禍神のあの姿…

でもだったらどうしてここで働いてるんだ？
花巫女の世界なんて神様だらけだろ？
確かに…
ですがそこまでは直接聞いてみないと…

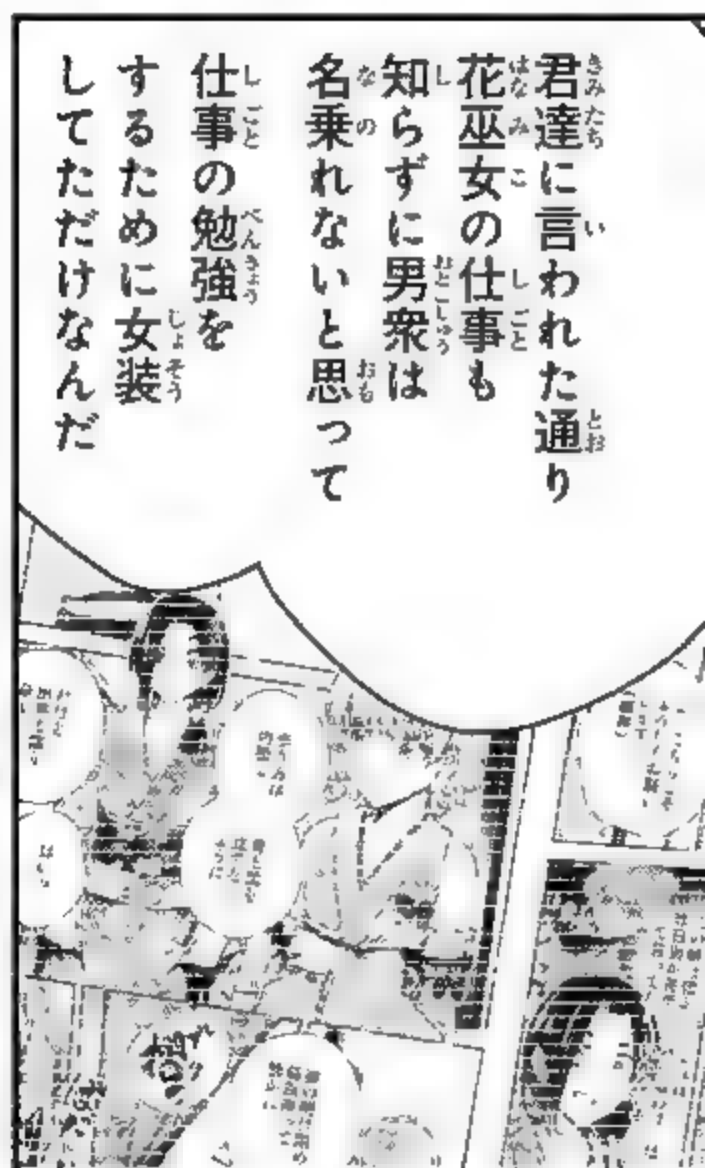
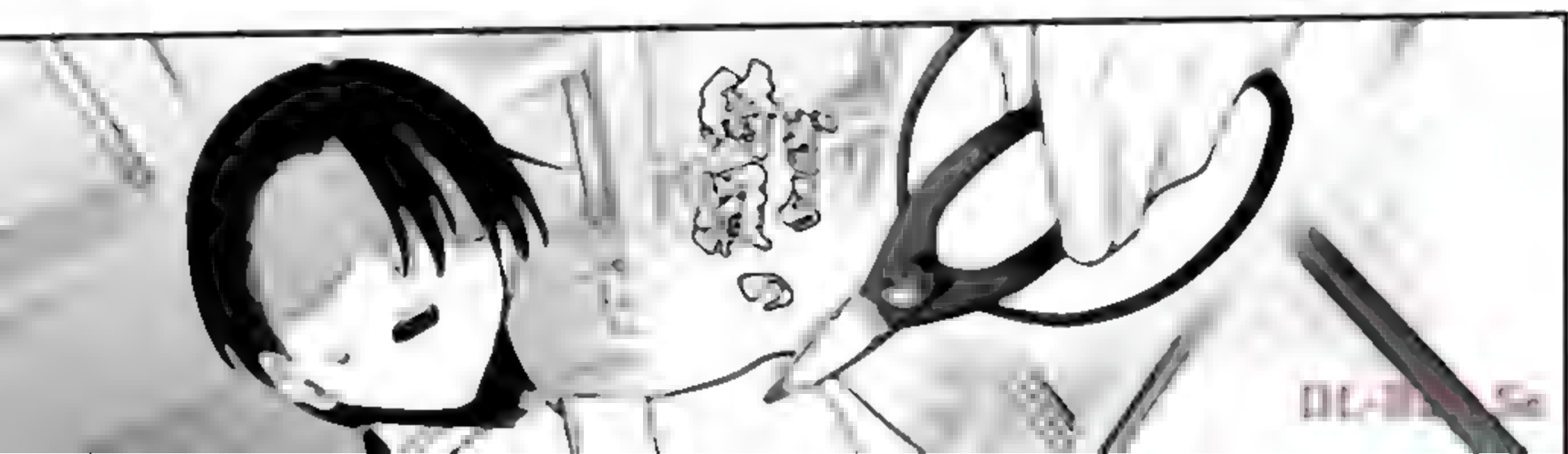
そっか…
彼女に聞こうにも部屋から出て来ないんじゃ…

そうだ 兄さん！ 詭々を使うのはどうですか？
それで神様が怖くなくなるよう暗示をかければ…
詭って… 春椿さんにか？

……

いや… それは止めておこう…
どうしてですか？ 折角 力が使えるのに…

力を使うにはその人の信頼が必要なんだろ？
どう考えても今の俺が信用されてるとは思えないし…
それに何より──

これは春椿さん自身が乗り越えるべき問題であって
そんなことしても問題の根本的な解決にならない気がするんだ
雛ちゃん彼女の部屋を教えてくれないか?
なにか策でも思いついたんですか?
いや…
誠意を見せる
それしかないだろ

こんこん
懇々

春椿さん居るか？

俺だ 神代新だ

すまなかった

ごんっ

雛から聞いたよ…君がここに来る前のこと
そんな君に最低のことをしてしまった…

君達に言われた通り花巫女の仕事も知らずに男衆は名乗れないと思って仕事の勉強をするために女装してただけなんだ

何を言っても言い訳にしかならないことはわかってる…
でも君を傷つける意図は本当になかったんだ

春椿さん…

頭では理解っているんですけど…

どうしても怖いんです…

だけど
その時

ある花巫女に
命を救われたん
です

その時は
お礼も言えず

だから その人に
恩返ししたくて
花巫女に
なったんです

だからもう諦めます

こんな臆病者が花巫女になんて最初からなれっこないですよね

だから君は自分で思っているより強い人だよ

そうだよな…こんな簡単に解決できるほど単純な問題じゃない…

彼女がこんなに悩んでいるのに俺は何も出来ないなんて…

どうする…謉を使うか…？

だけどそれじゃあ根本的な解決にならないと自分で言ったばかり…

！

春椿さん
〝誂〟って知ってるか？
緩る

大昔 楼主様の一族が使えたと聞いたことはありますけど
ただの伝説ですよね…？

！
どうやら俺にはその力があるみたいなんだ

これがその証拠だ
この力を濫用しないように高嶺様からかけられた呪い

今から君にある誂をかける
だから俺を信用してくれ
春椿さん

誂を…私に…？

ああ…

君が俺を信用してくれるなら…

第五輪「春椿 其の参」

怖い…

動悸どくんっ

動悸どくんっ

目を合わすだけでも体の震えが止まらない…

やっぱり無理なのかな…？

本当は男の人に頼りたくなんてない…だけど…

悪い人じゃ…ないんですよね…

もし この人を信じることでこの恐怖心が消えるなら――

わかりました…お願いします

正直可愛らしい

はい？

その花飾りもなかなか似合ってるし

いいセンスだ

もしかして生け花が趣味なのか？

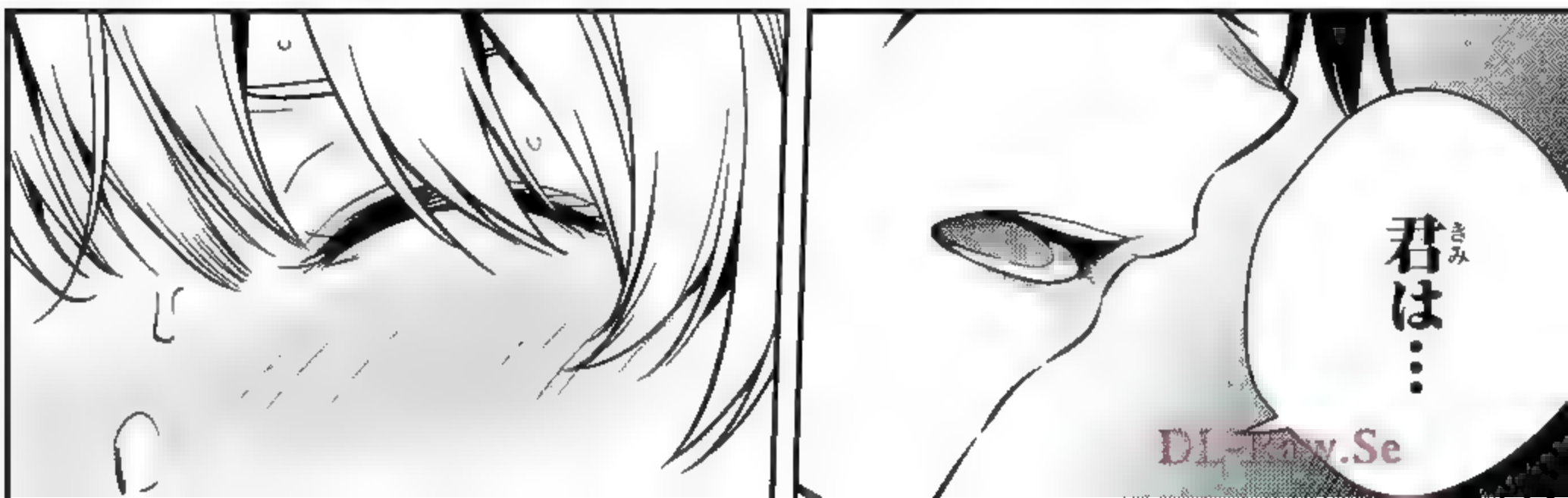
上品で良い趣味じゃないか

？

？

それに前に仕事を教えて貰った時にわかったよ

君は礼儀正しいし気遣いが出来るとても優秀な子だって

君はいつか最高に立派な大人気花巫女になる…俺が保証する！

あのっ…
恥ずかしいから
それ以上 止めて
ください…!
そう
その謙虚な
感じも最高だ

知ってるか?
椿の花言葉は
控えめな美しさや
謙虚な美徳
だそうだ
君にピッタリ
じゃないか

最近 褒めただけで
セクハラ扱いされる
みたいだけど俺は
どうも隠し事は
苦手でな
どうか最後に
一言 言わせてくれ

正直
惚れそうだ

だから止めてくださいって…言ってるじゃないですか!!
な…中々良いビンタだ…
私をからかうことの…どこが言霊なんですか…!?

いや効果はあったみたいだぞ…？
体の震え…止まってるじゃないか
！

こ…これは…貴方を止めたい一心で…
そうだ！今の感覚を忘れるな？ビンタとはいえ自分から男に触れたのは大きな一歩だ

どういう…意味ですか…？

君と最初に会った時のことを思い出してさ

君の心の中には恐怖心に対抗しようとする強気な君が居ると思うんだ

今まではそれがハサミという形で表に出てしまっていただけ

その心を上手く使いこなすことが出来るようになればハサミなしで男性と接することが出来ると思ったんだ

「だから君に魂の力は必要ない」

これが俺からの言葉だ

どうして誂を使ってくれなかったんですか…？
誂を使えば簡単だけどそれじゃ根本的な解決にならない
だからこれは春椿さん本人の力だよ

確かに…怖くありませんけど…
触…
！
春椿さん…？
貴方が相手だからに決まってるじゃないですか…

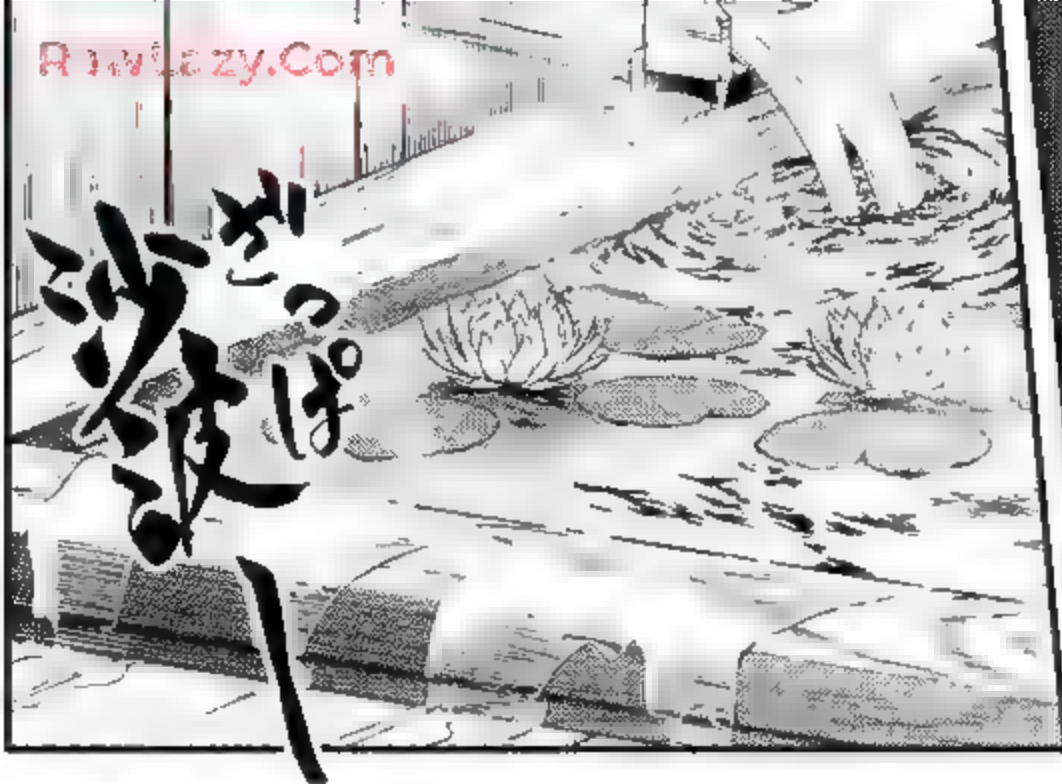
貴方の言った通り
もし最高に立派な
大人気花巫女に
なれなかったら

責任 取って
貰います
からね？

数日後

ようこそおいで下さいました

こちら最中の月はサービスですので

是非ごゆっくりしていってください…

ほっ♡

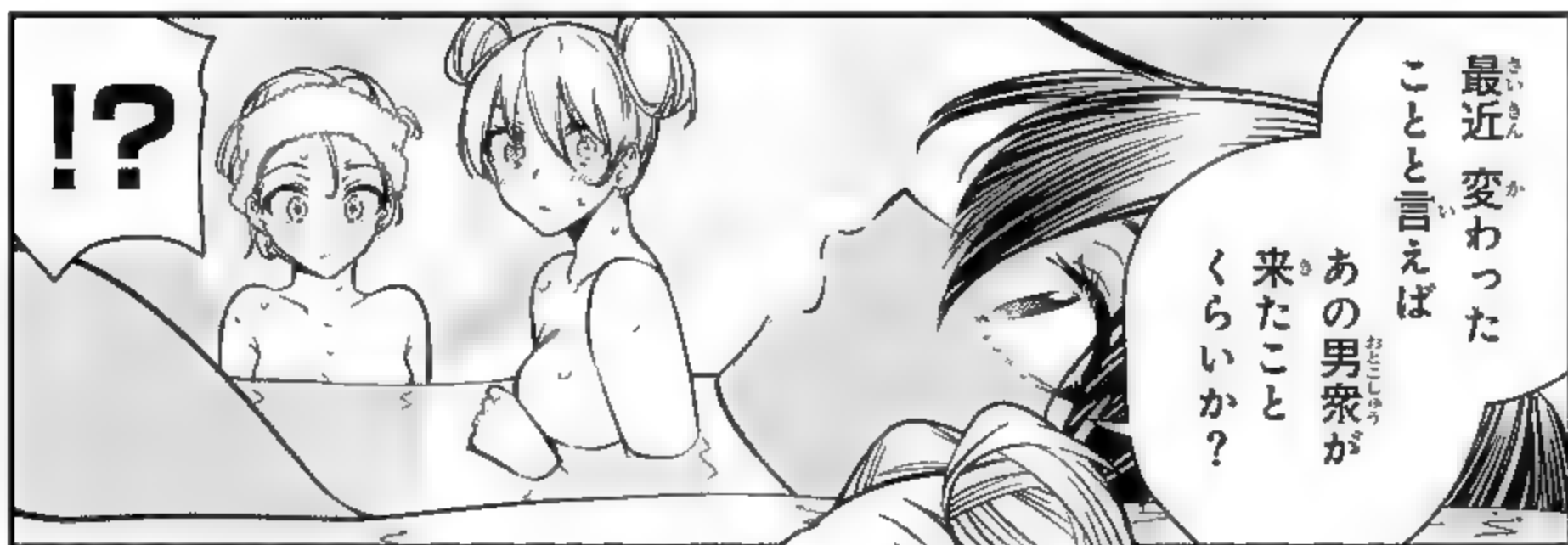
あー今日も疲れたー

貴女疲れるほど仕事なんてしてないでしょう？

春椿を見習いなさいな

私は簡単なお仕事ですから

まだ神符は全然貰えてませんけど…

そういえば
春椿
最近 妙に仕事
熱心だけど
何か心変わり
することでも
あった？
無理しちゃ
だめよ？
いえ…
別に…
最近 変わった
ことと言えば
あの男衆が
来たこと
くらいか？
!?
もしかして
あの男に
何かされたん
じゃ…!?
大丈夫ですっ
何もされて
ません…！

むしろ良い方だと思います

新様が励ましてくれたお陰で私も少しは接客出来るようになりましたし…

今日のお風呂も新様が洗ってくれたらしいですし

はあっ!? キモ!

いや…そもそも私はあの男がこの部屋で働くって許可した覚えはないし

薺はどう思う?

私は殿方に興味ありませんわ

貴女達平民の多数決に従います

私は正直 健康な男の身体がどうなってるのか気になるところではある

アンタには聞いてないわ稲妻

けど多数決ってことはあの男がここで働くってことは決まりだよな？

賛成

賛成

無投票

反対

もしアイツの正体がケダモノだったとしても
奴がここで働くってことに賛成？
それは…

絶対廓夜城から葬ってやる…！
第2巻につづく

花巫女の見た目って巫女というより

花魁っぽくない…？

あり得ない話だけど

もし神様にそういうことを頼まれたら皆どうするんだろ…？

月下だったら…
ハァ!? そんなの絶対嫌に決まってるでしょ!
って嫌がるけど神符の為なら最終的には折れそう
脚が良いなんてとんでもない変態ね…

稲妻なら…
お前も物好きだな…
仕方ねーなその代わり…
他のウチの部屋の花巫女には手を出すなよ？
とか言いそうね…

薔はそういうことはどうでもいいと思ってそうだし…
はあ…そういうことでしたら…
面倒くさいのでどうぞしたいようにしてくださる？
その代わり私は本でも読んでますわね
てな感じだったりして

春椿は…
本当はこんなことしたくないですけど…
どうしてもと言うのでしたら
見せるだけなら…
ってそんな訳無いか…

まあ絶対
あり得ないけど
私だったら…

兄さん
なら…

いい
ですよ…

次巻予告

月下の追い出し作戦、
――決行！

この誘惑に耐えられるか!?

1月8日(水)発売予定!

色気たっぷり♥

按摩に決まってるだろう?

!?

お礼なら後でたっぷりするからさ…♥

!?

「廓夜城」を彩る
魅惑の花巫女たちも登場!

今夜どこかに泊まって行きませんか?

春椿、月下との距離を縮める
新に雛がついに動く…!!

魁の花巫女② 2025年

編集部では、この作品に対する皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。
また「講談社コミックス」にまとめてほしい作品がありましたら、編集部までお知らせください。

〈あて先〉
〒112-8001 東京都文京区音羽2-12-21 講談社
週刊少年マガジン編集部「少年マガジンKC」係
なお、お送りいただいたお手紙・おハガキは、ご記入いただいた個人情報を含めて
著者にお渡しすることがありますので、あらかじめご了解のうえ、お送りください。

★この物語はフィクションであり、実在の人物・団体・出来事などとは一切関係ありません。

作品初出／マガジンポケット2024年7/17号～8/7号

KCDX 週刊少年マガジン

魁(さきがけ)の花巫女(はなみこ)①

2024年 10月 8日 第1刷発行（定価は外貼りシールに表示してあります）

著　者　きただりょうま

発行者　森田浩章
発行所　株式会社 講談社
〒112-8001 東京都文京区音羽2-12-21

印刷所　株式会社新藤慶昌堂
本文製版所　株式会社二葉企画
製本所　株式会社フォーネット社

N.D.C.726　191p　19cm　Printed in Japan　ISBN978-4-06-537191-6

きただりょうま

埼玉県入間市出身

きただりょうま作品

【KCDX】
「魁の花巫女」1～以下続刊

【JUMP COMICS】
「μ&i」全6巻
「ド級編隊エグゼロス」全12巻
「ユメオチ～ユメで僕らは恋にオチる～」全4巻

【電撃コミックスEX】
「心にやさしい単行本～即オチ2コマ劇場～」全1巻

【角川コミックス・エース】
「見知らぬ女子高生に監禁された漫画家の話」1～以下続刊

カバー表紙折り返し

カバー裏表紙折り返し

cover design : Tadashi HISAMOCHI (hive&co.,ltd.)

RawLazy.Com
魁の花巫女
1
きただりょうま
SHONEN MAGAZINE COMICS
本体表紙

人々に災いを齎す
〝禍神〟と戦う美少女軍団がいた。
彼女達は〝花巫女〟と呼ばれ、〝廓夜城〟で働き、暮らしていた。
父の死をきっかけに、
東京から実家の神社に戻った神代新は、
父がかつて〝廓夜城〟の楼主だったことを知る。
〝花巫女〟になった姪の雛を守るため
新は楼主を継ぐことを決意するが、
個性的な〝花巫女〟達を取り纏めるのは想像以上に難しく…!?

男子禁足の城で、
美少女達との刺激的なハプニング満載！
豪華絢爛！ 花巫女バトル開幕!!

カバー裏表紙

KC
DELUXE
魁の花巫女
1
きただりょうま
KODANSHA
魁の花巫女 1
きただりょうま
SHONEN MAGAZINE COMICS

※この物語はフィクションです。実在の人物・団体・出来事などとは、一切関係ありません。

※収録されている表現は、作品の執筆年代・執筆された状況を考慮し、コミックス発売当時のまま掲載しています。

魁の花巫女（1）

2024年10月1日（01）

著　　きただりょうま

発行者　　安永尚人

発行所　　株式会社　講談社
〒112-8001
東京都文京区音羽 2-12-21